



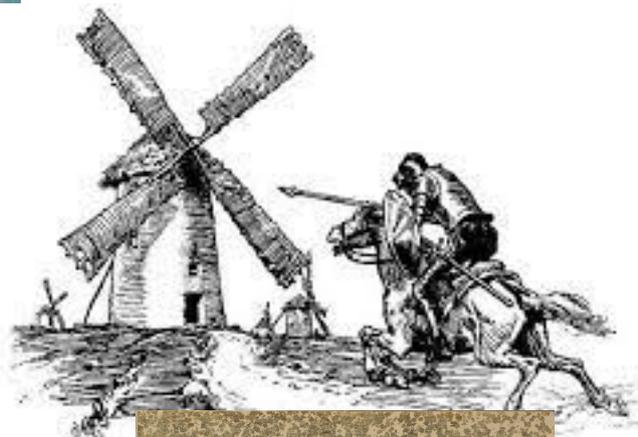
月刊 もぐら通信

2013年9月1日 第130号 初版 <http://abekobosplace.blogspot.jp>

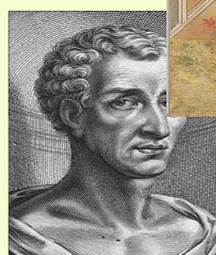
あなたへ：
迷う事のない迷路を通して
あなただけの番地に届きます

もぐら通信を自由にあなたの「友達」に配付して下さい

「私のイメージの中にある、空想科学小説は、べつに科学技術の発達にともなって生まれた、通俗科学啓蒙小説のたぐいなどではなく、むしろギリシャの古典文学、たとえばルキアノスの『本当の話』などから、すでに脈々としてつづいている、仮説設定の文学伝統、『ガリヴァー旅行記』『ドン・キホーテ』『西遊記』等々と、枚挙にいとまもない、大きな文学の流れの、一つのあらわれにほかならないのだ。仮説を設定することによって、日常のもつ安定の仮面をはぎとり、現実をあたらしい照明でてらし出す反逆と挑戦の文学伝統の、今日的表現にほかならないのである。」（『仮説の文学』全集第15巻、238ページ [1961.6.3]）



Lucian's True History
Lucian of Samosata



Published by the
Made in the Uta

安部公房の広場 || www.abekobosplace.blogspot.jp

abekobosplace.blogspot.jp



『S・カルマ氏の犯罪』の最後に登場する
非ユークリッド空間を映写する映写機

目次

- 1 目次…page 2
- 2 記録&ニュース&掲示板page 3
- 3 巻頭詩（16）Masters [名人たち]：キングスレイ・エイミス……page 12
- 4 周辺飛行（41）：3。『周辺飛行』について（21）：猫：周辺飛行番外篇：岩田英哉…
page 18
- 5 私の本棚（35）：小松左京著『小松左京自伝—実存を求めて』を読む：小松左京と安部公
房……page 24
- 6 二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（11）：7.4 そもそも日本文学に云ふ小説
とは何か：岩田英哉……page 34
- 7 糞尿と性愛の文学～生殖器・排泄器同一社会論仮説～（3）：1。古事記の中の糞尿と性愛/
1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（2）：待て次号：岩田英哉…page 38
- 8 ネット・メディア論（16）：7.4 メディア・プロパガンダの構造：岩田英哉…page 39
- 9 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（14）：5.16.4 八の音義は何を意味するか
（3）：G 日本書紀にある「神武天皇より数へて」「今に一百七十九万二千四百七十余歳」とある
皇統の長さ（90万年）は何を意味するか：岩田英哉…page 50
- 10 Topologyで日本の文化を解説する「内なる辺境シリーズ（12）：扇：まて次号：岩田英哉…
page 68
- 11 編集後記…page 69
- 12 編集方針……page 70

The Best Tweets of the Month

Golden Mole
Prize

罌粟 (けし) @keshi_31 4月18日

<https://youtu.be/ZboCo6bk88k>

最初の方でふっと安部公房がこぼす「ツルっとしてて...」という言葉、かなり重要な気がするな。



安部公房「文明のキーワード」聞き手：養老孟司 (19...
1987年放送第1回「世紀末の現在」第2回「コトバは人
を減ばすか」出演：安部公房 養老孟司
youtube.com

Silver Mole
Prize

やす。@BooTutia 4月21日

実家から中学の時に書いた安部公房の夏休み読書感想文の下書きが発掘された。全体を8部に分けて順番をどうするか試行錯誤してたりして工夫を感じる。ただ、中身は「作者はキチガイ、俺も引きずり込まれかけた」を詳しく書いてるだけ。

アカネ@hohoemigaesi 15時間

安部公房の「箱男」。序盤でもうかなり素晴らしいので、一旦落ち着く。 #NowReading

Senkawa Akira@SenkawaAkira 4月19日

なんで美術系の子が安部公房にはまると箱男を実践するのだろうかという疑問。

成田イヨコ@nesugoshita_ 4月20日

唐突に安部公房が懐かしくなった 何にも詳しくないどころか国語で挫折させられた宿敵なのでそろそろ倒したい 今度買いに行くか

トマス@yaso_thomas 4月22日

返信先: @wasure_te_さん

安部公房も大好きです。漱石とは違う面白さが味わえますのでお楽しみに。

青い本水石鉄二@読書noter@TetsujiMizuishi 4月21日

最近になって安部公房の作品が読めるようになってきた (気がする)。きっと安部公房のエッセイを読んだからだろう。つまりエッセイをヒントにして作品を解釈しているということだ。ただ、作品に対する感想が、多くの他の読者とずれている点には注意したい。

もぐら通信

るしー。@FLORABELLIO_ROR・4月19日

#るしーの叫び

#安部公房

私も棒になりたい!!

口の中も砂じゃりじゃりでいい!!

箱もかぶっていたいんです!!

いいですね? 安部公房先生。



The worst tweet of the month

ワダアキラ@akira23141・15時間

安部公房の戯曲はなかなか面白いが、三島由紀夫が絶賛したほどのものではない。

今月の詩人の生涯

北川原梓@AK_Kodachi・4月16日

今朝チキンチキンと鳴る夢を見たような気がしたので、#安部公房「#詩人の生涯」を。社会格差を見詰めた作品だけれど、この作品の形容は「美しい」が相応しいと思う。

ロウドクシャ@roudoku_sha・Apr 18

#安部公房「#詩人の生涯」(1951)

「骨の髄までメタモルフォーシスの論理で武装した小説家」(#澁澤龍彦『変身のロマン』解説)「ユーキッタン」という不思議な音から始まるこの小説は、澁澤氏の語るメタモルフォーシスの論理が顕著に現れている作品の一つです。ロウドクシャでは2018年に上演。

ロウドクシャ@roudoku_sha・4月19日

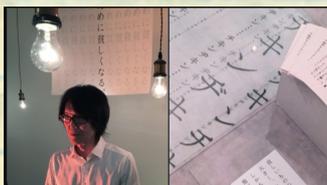
#安部公房「#詩人の生涯」

演出・美術◎北川原梓 @AK_Kodachi

出演◎奈佐健臣 @nasa_kenji

音楽◎河崎純 (Cb.)

会場◎KAF GALLERY



今月の安部公房単行本一括

大阪天三の古書店 矢野書房@yanoshobo・4月20日

おはようございます。今日も戦後文学ものです。

タイトルが色々物語ってる気がします。安部公房。



今月の壁

青い本水石鉄二@読書noter@TetsujiMizuishi・4月21日

安部公房『壁』

「壁」という概念が鮮やかに拡張される小説だった。数学書を読むときと似たような楽しさが味わえるように思う。やはり安部公房の小説は難しい。彼の創作の背景、発想の背景を探るには、広範な知識が必要となる。もちろん、それ故に面白いのだが。

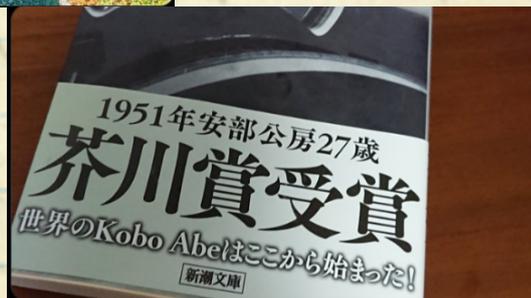
てき@teki1987・4月19日

安部公房の壁を読んでいます。ハシゴを一段一段ゆっくり降りるように読んでいます。かなり面白いです、壁。



ノエル∞@JAM3日@QdnkSfpm・4月24日

45. 壁/安部公房



今月のR62号の発明

『R62号の発明・鉛の卵』安部公房読了。バラエティに富んだ短編集で、奇想・SF的な要素が強く面白かった。非日常的な世界がストレートに登場人物へと影響を及ぼす点で、個人的に長編よりずっと親しみやすく、また貧困など現在の社会問題とリンクする作品もある。短編の評価が高いというもうなづける

今月の第四間氷期

青い本水石鉄二@読書noter@TetsujiMizuishi・4月22日

安部公房『第四間氷期』面白いのには違いないが、現代社会で目を背けてきた部分をつまびらかに見せられるので、読んでいて暗くなった。(20世紀の小説だが) 21世紀の問題が複合的に言及されている。その内容については本作を読んで確かめていただきたい。磯田光一の解説も必見。#読了

佐藤雄一(Sato Yuichi)@yy_sato・4月24日

安部公房『第四間氷期』みたいです。



もぐら通信

今月の赤い繭

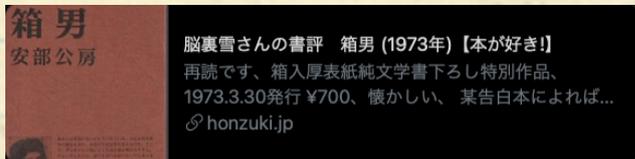
音隅 管譜@otonezumi・4月18日

おれは家と家との間の狭い割れ目をゆっくりと歩きつづける。街中こんなに沢山の家が並んでいるのに、おれの家が一軒もないのは何故だろう？……と、何万遍かの疑問を、また繰り返しながら。 —安部公房『赤い繭』

今月の日本の箱男

書評でつながる読書コミュニティ本が好き！@honzuki_jp・22時間

再読です、箱入厚表紙純文学書下ろし特別作品、1973.3.30発行 ¥700、懐かしい、某告白本によれば本編は公房の果林へのラブレターだったという、のだが、ひええ... 『箱男 (1973年)/安部公房/新潮社』 <https://bit.ly/3err7jP> #本が好き



脳裏雪さんの書評 箱男 (1973年)【本が好き!】
再読です、箱入厚表紙純文学書下ろし特別作品、
1973.3.30発行 ¥700、懐かしい、某告白本によれば...
@honzuki.jp

大橋プリン @_o_love_o - 4月18日
金曜日にコナン見ながら、小1息子がずっとこうなるって
このスレッドを表示

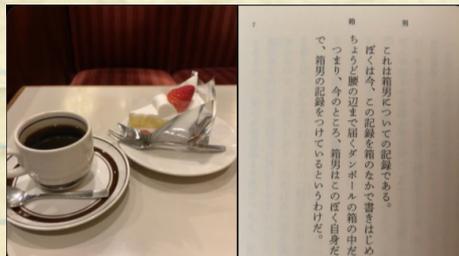
aka@quasiconformal・4月19日

安部公房に箱男って言う小説が昔あって、それを真似した時期もありました。



ごめちゃん@pipipin_opipipi・4月22日

ショートケーキが1番好きなのであれば必ず頼んでしまう、、、、、、、、
苦手なコーヒーとクラシックとめちゃくちゃ合う安部公房を読み腐った



今月のベルギーの箱男

aka@quasiconformal・4月20日

ベンチャーって本来こういうものだよな。

<https://twitter.com/tatsurokashi/status/1384371946100453376?s=20>



安部公房の広場 | www.abekobosplace.blogspot.com

午後1:52 · 2021年4月20日 · Twitter Media Studio

今月のカンガルー・ノート

びょうとり@byo_tori・4月19日
ラジオのタイトルを決めあぐんでいたんだけど、今日ぼろっと出た「半可通」がいい感じに思えたので決めた。隷書風の作字なんて初めてやった。普通に明朝体でよかったな……。ボツです。安部公房の『カンガルーノート』をもじりました。



今月のユープケッチャ

ごとうアイスベビ@tabarita1115・4月24日
ゴジラ S.P <シンギュラポイント>、面白いなー。まだ二話ですが。脚本は円城塔さん。二話でちらっと映った主人公の研究には安部公房の『ユープケッチャ』が参照されてた。おーそっち系で行くのねー。これから楽しみ。



今月の燃えつきた地図

幻妖斎(ニューラルネットワークによる自動色付け)

@Kenashian・4月19日 #地図の日

安部公房の謎小説の映像化ですが、どうして勝新がこれを？という謎が原作をはるかに超えちゃってます。

『燃えつきた地図』

非おむろ@Non_omuro・4月25日

#勝新太郎 #渥美清

#燃えつきた地図

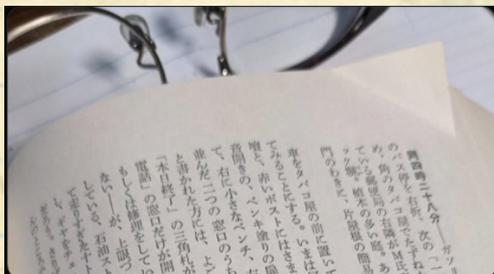
#安部公房 #勅使河原宏



もぐら通信

Tanaka Shuji@MC_sewer_rat・4月25日

安部公房の燃えつきた地図を読んでいる。昨夜の続きに目を通す。ゆっくり読むと昭和の時代が蘇る。



今月の贖カンガルー・ノート

ミーシャ (Миша) @mChern_ABSABE・4月18日

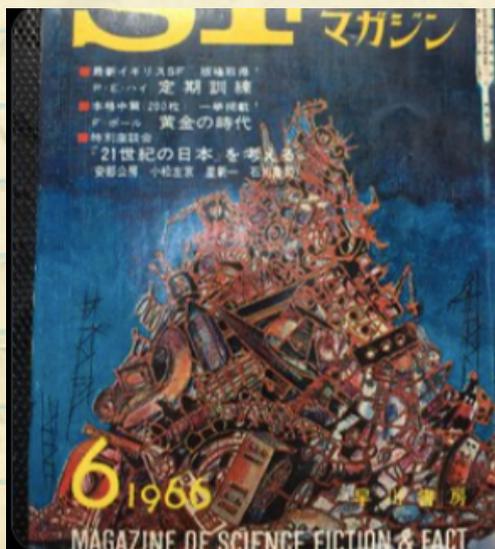
返信先: @mChern_ABSABEさん

何冊もあった安部公房の作品の内、一つだけ見たことも聞いたこともない物があった。タイトルをハッキリ思い出すことは出来ないが、『～の譜面 (フリガナは”ノート”)』と灰色の明朝体書いてあったのは確か。『安部公房の譜面』で、安部公房自身がそのタイトルで出したんじゃなく誰かが編集した物かも。

今月のSFマガジン

西山宗一@souichi_n・4月22日

メンバーが厳つすぎる



今月の読者

K@culture0418・4月20日

昨日、録画してたA-スタジオの松岡茉優さん回を観た。

『桐島～』の演技が素晴らし過ぎて、一発で心を鷲掴みにされた初めての役者さん。

高校時代は人と打ちとけるのが苦手で友だち付き合いがなかったけど、休み時間に安部公房を読むことで「“あえて” 独りを選んでも」アピールをしたエピソードが最高



もぐら通信

らくらくラクダ/JQ3AKE@orangeaburidasi-4月23日
安部公房しか読まないから安部公房しかない



文藝同人無刀会@第三十二回文フリ東京ア-26#様子見@CoterieMutoukai-4月24日

「鞭と人参」大坪命樹著。
大坪は、若いときに安部公房に感銘を受け、奇を衒ったような小説を、背伸びして書きました。絵画の影響を色濃く受けた、シュールリアリスティックな短編「眼」「鞭と人参」が収載されています。



村上@murakamikai_-4月18日
安部公房マニアだが、あまり一番好きだと言えない



今月の安部公房

古本タケシマ文庫 / 熊本の本の買取/
熊本の古本屋@takeshimabunko-4月22日
安部公房とシンセサイザー
渋い



今月の死に急ぐ鯨たち

Jun@Jun524t-4月20日
安部公房『死に急ぐ鯨たち』(新潮文庫)。問うことはそれ自体が答えを含んだメビウスの環である。問い続けることによってのみ、異常が正常視され、正常が異常視されることから逃れることができる。人はみな一切の権威や伝統を拒否したドストエフスキーの読者になるべきなのだ。#読了



今月の安部公房論

Masahiro Makino@mMakino・4月18日

安部公房『密会』論——ポストモダンの監視権力に抗して—— | 学習院学術成果リポジトリ <https://glim-re.repo.nii.ac.jp/>

[index.php?active_action=repository_view_main_item_detail&page_id=13&block_id=21&item_id=4875&item_no=1](https://glim-re.repo.nii.ac.jp/index.php?active_action=repository_view_main_item_detail&page_id=13&block_id=21&item_id=4875&item_no=1)

今月の人間そっくり

いのふみ@読書好き副業ライター@togaly0317・4月19日

「人間そっくり」安部公房。ユニークな小説です。「こんにちは火星人」という番組の脚本家の元に火星人と名乗る男が現れる。男は様々な理屈をつけ「人間そっくり」な火星人という自分の主張を正当化する。読んでいると男の弁舌に翻弄され真実とは何なのか？わからなくなってきます。



今月のキンドルと無能出版社

New Mew Mew@newkantianist・4月20日

三島由紀夫と安部公房の作品がkindle化されないの、関係者が無能すぎる

Mole Hole Letter Bを発行します

日々の内外の情報に接して、Mole Hole Letterの話のネタが行列をなしてあります。毎月のペースではとても消化し切れませんので、本誌もぐら通信の合間に、Mole「Hole Letter B」として此の記事を不定期に一種のニュースレターのやうに配信することにしましたので、ご了解下さい。自走ベッドに運搬されるあなたに対して、「垂れ目の少女B」の位置にある便りといふわけです。あなたが箱男になるための冷蔵庫の入りさうな言葉の段ボール箱を届けます。どうかあなたの失踪にご利用下さい。不要であれば、安部公房の撮影した新宿の街角かニューヨークの路地に捨てて下さい。次の箱男が使ふでせうから。

今福龍太氏の安部公房についてのエッセイ

同氏の安部公房論が筑摩書房の読書人のための月刊誌「ちくま」(2021年5月号)に掲載されてあります。計6ページ。連載の題名は「ぼくの昆虫学の先生たちへ13 安部公房先生」です。





ぼくの昆虫学の先生たちへ

13

安部公房先生
今福龍太



ハンミョウの遺浪——安部公房先生へ

安部公房先生、生前にお会いすることはなかったにもかかわらず、先生の小説の熱心な読者を感じてきました。青年時代から、先生に、ぼく自身の人生の分岐点ともいえるようなところに、先生の影が不意に現われて、暗示的なメッセージを送ってきた瞬間が幾度もあったように思うのです。まるで、先生の小説が登場する巧妙に仕組まれた伏線のように、ぼくはその謎めいた暗示をなにかの前兆として受けとめ、先生が描き出す未知の究極の彼方に、自分の歩むべき道を探ろうとしたような気がするので、とはいえ、もちろん、先生にぼく自身の彷徨いにみちた生の転変の責任を負わせようなどというつもりは、まったくありません。すべては、常人とおなじ生き方を選べなかつた者の、一方面的な思い込みにすぎないのですから。でも、先生の小説はぼくに、通い慣れた道を踏み外す勇気をたしかに与えてくれたのです。

これは忘れようがありません。出版後一〇年、ぼくが一七歳くらいの頃だったでしょうか。何處も寝込み返りました。地味な風俗の男が、訪ね来た砂丘のアリゾタのような穴に引きずり込まれ、砂の嵐気と圧で打ちかけた家に眠るもなく投獄監禁されてしまう。出口なしの状態にたいする必死の抵抗の果て、最後はその境遇を勝手に受け入れてゆく、重責をつく不条理な展開の物語に、まずは皮肉を吐かれたことを悔やんでいます。砂中の家に住みついたままだった男はそのまま誰からも発見されず、法律にもとづいて失踪者宣告を受け、社会的存在としては消えてしまします。そんな人がじつはこの世にたくさんいるのだろうか？ 孤絶した都市生活からの脱出というテーマ、その脱出の究極の不可能性というテーマが背後にあることは感じとったのだと思いますが、作品のそうした高潔的な意味よりも、砂の穴にとじ込められる奇想天外なプロットや哲學的・風刺的な文様、陰鬱にとむ心理描写といった小説技法の力に、圧倒されたのだと思います。そのうえで、この作品にはぼくの昆虫への愛着を別の角度から掘さる、魅力的な仕掛けがはこばこ隠されていました。なぜ主人公の男が砂のなかに埋もれたような田舎の村へと向かったのか。そ

の理由を説明するために、先生は、砂地に棲む珍しい昆虫を求めて男が砂丘地帯を訪れたのが、という冒頭の設定をつくられました。男の失踪のきっかけが、想像力をたくましくさせる物語を生むであろう、都合からの通じとか、心中とか、誘拐とかではなく、たんなる趣味的な昆虫採集のためだったという拍子抜けするような設定をあえて通すことで、先生はこの小説に宿った心理学的解釈が入り込む余地をあらかじめ消し去ったのです。そんな通俗心理の空白地帯に広がる、より不条理な精神の荒野に近づいたために選ばれたのが、それはいかにいかなる心の産物でもない、無機的な砂であり、人間ならざる昆虫でした。砂と虫。そしてこの二つの印物的な存在の交点に在るもの、すなわち砂地に棲む典型的な昆虫こそ、男が長年追求めてきたハンミョウだったのです。

「砂の女」の主人公の男の目的とされた物語のハンミョウ類は、甲虫のなかでも独特の存在を示す虫です。漢字で書けば「産卵」または「産卵の場」ということですが、ピロッド状の光沢のある藍色の翅には、赤、白の斑紋がらばめられ、非常に色彩に富んだきらびやかな姿をしています。しかもその動きがなんと敏捷で、かつ思わぬ強りなのです。ぼくも幼年時代から海岸砂丘の近くに住んでいたで、日本のハンミョウ類の代表であるナミハンミョウ (Nishikigumo) にはしよつちゅう出で、紅色に産化する個体の美しいと独特な動きを魅了されてきました。美しい虫なので捕まえてようとするのですが、その瞬間さつと砂地の道を一二メートルほど低く跳んで巧みに逃げるのです。少し先の方にすくに着地し、こちらを振り向き、追いかけるさまとまた少し進んではこちらの様子を窺う、その繰り返しです。こうしていつまでもハンミョウのあとを追いかけてゆく冒険になり、だんだん

前号訂正版の発行

第129号の訂正版第三版を発行しました。訂正箇所は以下の通り：

P59：

訂正前：標高14、380メートル

訂正後：標高1、356メートル

ダウンロードは：<https://xfs.jp/vsVcwG>

巻頭詩

(16)

Masters

名人とは何か

キングスレイ・エイミス

翻訳：岩田英哉

MASTERS

That horse whose rider fears to jump will fall,
Riflemen miss if orders sound unsure;
They only are secure who seem secure;
 Who lose their voice, lose all.

Those whom heredity or guns have made
Masters, must show it by a common speech;
Expected words in the same tone from each
 Will always be obeyed.

Likewise with stance, with gestures, and with face;
No more than mouth need move when words are
 said,
No more than hand to strike, or point ahead;
 Like slaves, limbs learn their place.

In triumph as in mutiny unmoved,
These make their public act their private good,
Their words in lounge or court-room understood,
 But themselves never loved.

The eyes that will not look, the twitching cheek,
The hands that sketch what mouth would fear to
 own,
These only make us known, and we are known
 Only as we are weak:

By yielding mastery the will is freed,
For it is by surrender that we live,
And we are taken if we wish to give,
 Are needed if we need.

【和訳】

騎手が跳躍するのを恐れてゐる馬は失敗し、
ライフル狙撃者たちは、命令が曖昧で不確かであれば失敗する。といふのは、
確かに見えるものだけが確かなものだからである。といふのは、
自分の声を失ふ者は、全てを失ふからである。

遺伝形質や銃がつくつた人たちが、数多くの名人たちをつくつたのだが、
これら名人たちをつくつた人たちは、そのことを、誰にでも理解できる話言葉で示さねばならないのだ。
その各人一人一人から同じ調子でもつて、既に期待されてゐる言葉があつて、この言葉たちは
いつも敬意を以つて承服されることになるのだ。

立場、仕草、そして顔、これらが皆同じで、といふのは、
言葉が言はれる時には、口以上のものは何も動く必要がないからである。
打つたり、または前を指差したりするのに、手以上のものは何も動く必要がないからである。といふのは、
奴隷たちのやうに、四肢がその手足のあるべき場所を心得てゐるからだ。

移動しなかつた軍需品の中にあつて、即ち戦争に使用されぬ軍需品に於いてのやうな勝利を勝ち得て、
これらの人たちは、その公の行動を、その私的な善となすのであり、その言葉は、社交室（ラウンジ）や法廷では理解されるが、
しかし、彼ら自身は決して愛されることがないのである。

見ようとしなない両目、ピクピクする頬、
何を所有することを口が恐るものかを素描（スケッチ）する彼らの言葉、
これらのもののみが、私たちが知られるもの（公のもの）となし、そして、
私たちは世に知られるのだが、
それは、私たちが弱いものであるといふ、さういふ者として知られるのである。

マスターとしての、名人としての統率力と卓越や優越性を産み出すことによつて、意志といふものは自由になり、そして自由である。
といふのは、このことは、私たちが生きるといふ諦め（生きることは諦めることだ）、放棄、降伏によつてあるからであり、

そして、私たちが与へることを願ふならば、取られ、
私たちが必要とするならば、必要とされるからである。

【解釈と鑑賞】

第一連の最初の行「騎乗者が跳躍するのを恐れてゐる馬は失敗し」とあるのも、そのあとの「自分の声を失ふ者は、全てを失ふ」といふ同連最後の行を読むと、障害物を馬で飛ぶときに騎手は馬に声をかけるのでせう。その声に騎手の恐怖心があれば、その跳躍は失敗する。ライフル・メンも同じだ。命令者は、どちらの場合も、確かな声を出して命令しなければならぬ。確かなとは、自分の声で発声することだとわかります。

第二連では、名人たちといふ言葉が初めていはれる。そして、これら数多くの名人たちを生み出したのは、遺伝形質であり銃であるのだといふ。これは何を言つてゐるのかといふと、一つは人種なり民族なりの同族性に由来する伝統なのであり、もう一つは銃であるのだといふことです。銃とは戦争であり戦闘でありませう。かういふところが私たちにはよくいつも理解ができぬところですが、アングロサクソンは歴史的にいつも戦争をして来たので、これからも名人、英語でマスター・masterがたくさん生まれる。確かにさういはれば、イギリスのではないが、アメリカのハリウッドの昔の西部開拓時代の映画には射撃の名人であるガンマンがたくさん出てきます。日本ならば、応仁の乱や戦国時代の名剣士や剣豪といふところでありませう。宮本武蔵とか柳生但馬守といったやうな。

しかし、第二連の最後の二行を読むと「その各人一人一人から同じ調子でもつて、既に期待されてゐる言葉があつて、この言葉たちは/いつも敬意を以つて承服されることになるのだ。」とあるので、これは何も特別な異能の士である必要はなく、普通に市井の慣用的な表現をよく知つてゐて、その馴染みの言葉で意思疎通のできる人間たちが、名人を産むのだといふことがわかります。名人はこのやうな市井の中に生まれる。その人間たちは伝統に生き、従軍した人たちである。と考へてくると、確かに此の詩人のいふことは正しい。このことは国を問はず、民族を問はない。

第三連の「奴隷たちのやうに、四肢がその手足の場所を心得てゐるのだ。」といふ最後の一行は一見辛辣で、そして奴隷と英語でいつた以上は実際に辛辣極まりないことを詩人は言つてゐるのですが、しかし、これがどのやうな意味であるのかは先を読まねば解らない。といひますのは、このやうな何か正反対のものを一つのものやうになして、その合間を行くといふ趣のある文

章を、この詩人は文学評論家としては書くからです。この人の文章の感じがよくあなたに伝はると思ふ、たとへば、このやうな一行をSF文学評論に書くのです。「SFのもっとも心強くない特徴は、科学に対する過度の敬意である。」（山高昭訳『地獄の新地図』（早川書房）100ページ）うまく伝はるでせうか。あなたならもつと素直な書き方をする筈です。遺伝形質がキングスレイ・エイミスに似てゐない限り。このキングスレイ・エイミスといふ名前だつて、実は本名はエイミス・キングスレイといふのだといはれる方がずつと通りが良いやうに思ふが、如何か。（勿論、これは本名です。）

第四連に至ると、第三連であつたやうに此の詩人は辛辣なことを平然といふけれども、しかし他方バランスをとつてもう一方の方にも配慮をして、何か凡庸なものゝ辛辣なものゝの合間を行くのですが、この第四連で、このことがよく示されてゐます。名人を産む母体となる彼ら凡庸なる人たちは決して愛されない。しかしその言葉は社交の場所や裁判の即ち法律の場所といふ社会的な公の場所で理解され通用する。戦争をするために武器を使つてゐないで勝利する、そのやうな勝利が日常にあると詩人はいつてゐるのです。

第五連で、更に結論といふべき行が書かれてゐる。公と私、平時と戦時、戦時ではないが平時にあつて常に勝利する決して愛されぬものたち、そして奴隷のやうに型に嵌つた言葉と身振りで生活できる人たち、かういふ人たちを凝縮した人間像についての、第一行目は外面の、第二行目は内面の表現になつてゐる。後者の表現の意味するところは、口では恐怖心を語ることはなく、そのやうな言葉も持ち合はせてゐないが、しかし、同じことをサツと画家が素描するやうにスケッチのひと刷毛ふた刷毛で見せてくれる。それによつて、彼らではない私たちは世に紹介され、拍手もされて、何か名のあるものとして公の舞台に登場することになる。しかし常に弱者としてである。

ここで第一連の乗馬とライフル狙撃の話に戻ると、この人たちは心に恐怖心があるので、実は命令が失敗を招く類の人たちだといふことが判る。即ち、命令のできない人たちである。

ここまで読んで来ると、なるほど、私もこのやうな無礼な人間たちにはうんざりするほど会つたことがあるといふことを思ひ出した。地獄へ墮ちろ、である。しかし、この詩人によれば、そのお蔭で私は名人の一人になつたのだといふことになるが、果たして私は何の名人になつたといふのだらうか。怯懦な嘘の覇気を欠いた命令を受けたにも拘らず、障害物を間違ひなく飛び、鉄砲を撃つて間違ひなく人を撃ち殺した。そして、このことに於いて、彼らは私たちを決して褒めることがなく、自らの責任を引き受けることもな

い。だから、決して愛されない人々なのである。

恐らく作者は、日常生活の中の何かある小さな事件（とは誰も気付かぬやうなこと）か何か一寸したことから、この詩を生み出したものであらう。

第六連は、名人とは何か、マスターであることとは何かといふ問ひに直接答へてゐる。これはやはり第一連に呼応するものでありませう。

名人と訳すとやはり日本語の意味とはズレが生じる。何か孤高の人とか、道を極めて一人行く人といふやうな、これは形象（イメージ）ではない。マスター（ドイツならばマイスターと呼ばれてこれは国家的資格である）には、修業を積んでマスターした人といふ意味にある通りで、厳しい訓練と学習の結果、統率力や卓越や優越性が身に備はつてゐる。これを実際の生活の中に産み出すことによつて（山の中に籠るのではなく）、意志といふものは自由になり、そして自由である。

といふことは、イギリス人の自由とは、町の中・村の中で人の中にて生きることに関する自由だといふことになります。これはただ言葉だけを自由自由といふ私たちには考へさせられるイギリス人の自由です。ですから、自由には人付き合いの上での制約があつて、この制約との兼ね合ひであり得る優越性であり卓越性であるといふことになります。これを詩人は「私たちが生きるといふ諦め（生きることは諦めることだ）、放棄、降伏によつてあるからであ」と表現してゐる。

「そして、私たちが与へることを願ふならば、取られ、
私たちが必要とするならば、必要とされるからである。」

この論調は、どこか、「SFのもっとも心強くない特徴は、科学に対する過度の敬意である。」といふ上の引用の論理に通ずるものがありませう。

最後の結論「私たちが必要とするならば、必要とされるからである。」とは、私たち日本人にも共通してゐる。結局人間が仕事をするのは、このことの実感のためであり、この実感に依拠して私たちは仕事をしてゐるのである。あなたが仕事をする自分のことを想ひ出してご覧なさい。それがどんな地位にゐてのどんな仕事であれ、結局あなたは自分以外の誰かのために仕事といふものはしてゐるのだといふことに気づくでせう。

蛇足ながら、「私たちが生きるといふ諦め（生きることは諦めることだ）、放棄、降伏」であるといふ理解は、私の人生観とは大いに異なりま

すが、あなたの人生観や如何に。人生観は異なつてゐても、言語が異なつてゐても、人種が異なつてゐても、このやうに此の詩人を理解することはできない。さて、ここからどうしたものか。あなたがマスターになる道を探し求めるといふことになります。

この詩人は、「怒れる若者たち」と呼ばれるイギリスの文藝思潮に乗つて登場した若者であつた筈なのに、一体どうしたことであらうか。このやうに問ふてみれば、やはり最後の二行は意義深い。

「そして、私たちが与へることを願ふならば、取られ、
私たちが必要とするならば、必要とされるからである。」

なるほど、「私たちが与へることを願ふならば、取られ」といふ一行の条件文「私たちが与へることを願ふ」なぞは、確かに新入社員の、就職する前の世の中に対する、または社会に対する、幼い思ひではないだらうか。そして若者はいつも社会からの、自分が与へたことに対する対価を期待するが、そんなものはやつては来ない。そして「取られ」るばかりだと思ふ。それで、この詩人は怒つたので、当時、あらうか。しかし結局、何歳にならうとも、老若男女に通用する普遍的な言葉は確かに、

「私たちが必要とするならば、必要とされるからである。」

若い者には世の人の役に立つ技術がないので、期待する対価はやつて来ない。だから、「取られ」るばかりだと思つてしまふ。それ故に、これを第一連で、詩人らしく、自分の声を持つてと言つたのでせう。「自分の声を失ふ者は、全てを失ふ」。必要とする・されることと自分の声を持つことの間には人生があると「怒れる若者たち」の一人ではもはやない詩人は言つてゐる。



周辺飛行

(41)

3. 『周辺飛行』について (21)

猫

周辺飛行番外篇

岩田英哉

安部公房全集は編年体でできてゐる。

この『猫』と題したエッセイをここで番外篇として「周辺飛行」の連載の間に挟んだのは、前の周辺飛行の主題である「創造の哀しみ」の話に続く此のエッセイ『猫』の短文「ひと・ぴいぷる」（『夕刊フジ』の談話記事）に載った話がローマで開かれた世界食糧会議といふ人類の食糧危機に関する会議に言及されながら開演直前に行はれたインタビューで、これもまた演目は『緑色のストッキング』といふ食糧危機を救ふことになる羊腸人類の話ですから、この頃の世相の流れに応じて、次の「周辺飛行39」のいよいよ『公然の秘密』を前にして、なんと言つても、この間に挟まる猫についての此のエッセイの話も、世の愛猫家はびっくり仰天、安部公房が高校生の時代に猫を撲殺して戦時下の自分の食糧問題解決のために食らつてしまふという話ですから、なんとかして猫殺しが安部公房にとって如何に重要なことかを知つてもらふには最適の、周辺飛行の隙間の話ですので、ここで番外篇としてお届けする次第です。

このエッセイは三部構成になつてゐます。第一部は、安部公房の家（仙川の家であると思はれる）の庭に住み着いた野良猫の成人した、否、成猫した猫と、そこにこの大人の猫の餌を食べに、この「馬鹿猫をしたって、なぜか」やつてくる「ちびの野良猫どもの仔猫」の話です。第二部が、上記の猫を殺して食べた話。最後の第三部は、これら二部を踏まえての、安部公房が「今までに見た、猫に関するもっとも美しいイメージ」を語る一段落。といふ三部構成になつてゐる。

大きな成猫を「馬鹿猫」と観察の結果呼ぶにせよ、このいひ方でわかる通り、安部公房はいつも猫に対して実に残酷な感情を持つてゐます。一体安部公房にとって猫とは何か、猫は何を意味してゐるのか、何故安部公房の猫はいつも殺されるのかは、『何故安部公房の猫はいつも殺されるのか？』で論じた通りです（もぐら通信第58号）其の勘所を此処で引用して、この猫のエッセイの本題に入りたい。この論考の目次を示します。これで如何に安部公房は小説の中で猫殺しをする作家であるかがお解り戴けると思ひます。「仔猫」と、子ではなく仔の文字で書いてゐる以上、「仔象は死んだ」の用字法と同じで、この猫は最初から死ぬ運命にあるか、または既に殺されて死んでゐる猫といふことになります。

「 I 小説の中で何故安部公房の猫はいつも殺されるのか？

1. 第一の猫殺人事件：処女作『（霊媒の話より）題未定』の猫
2. 第二の猫殺人事件：『他人の顔』（講談社版）の猫
3. 第三の猫殺人事件：『燃えつきた地図』の猫
4. 第四の猫殺人事件：『方舟さくら丸』の猫

II 1957年（昭和32年）32歳の時に東欧旅行中の安部公房が真知夫人に当てた葉書の文面から解ること

III 『キンドル氏とねこ』：第五の猫殺人事件

IV 安部公房の小説観と世界認識

V 何故安部公房の主人公は複数存在するのか？

VI 安部公房はリルケの天使を殺したのか？」

これらの猫殺人事件、といふのは変な命名ですが、意味は殺猫事件といふ意味ですので、そのつもりでご理解戴きたいのですが、この話の最後に猫が殺されるといふことの原因を上記「II 1957年（昭和32年）32歳の時に東欧旅行中の安部公房が真知夫人に当てた葉書の文面から解ること」から引用します。これは、存在の仔鼠と不在の猫の関係部のみの引用ですから、この前後を含めて安部公房の猫を此の論考の文脈の、安部公房文学のもつと広い全体の中で理解したいと云ふ御興味のある方は、第58号のダウンロードは：<https://docdro.id/jh8VC5r>

「結局、かうしてみると、玩具の猫は言語である、といふことになります。この猫は現実の時間の断層であり断面である斜面を転がって、言語的に多次元的な諸相を写し映すものである、そのやうな写像の対象となる投影体である。と、このやうにいふ事ができるでせう。ここまで此のエッセイの論旨を問題上昇させてみると、確かに其のやうである。

また、1966年の『玩具箱』といふ、安部公房が『終りし道の標べに』で世に出た後に『近代文学』を舞台に親交のあつた埴谷雄高や、花田清輝、それから存在の中の師石川淳、また千田是也についての印象を書いたエッセイがある。それにはかうあります。

「戦後はすでに、遠く霧のなかに沈んでしまった。べつに、思想や方法のことを言っているのではない。ごく単純な、記憶の問題である。霧の中に目をこらしていると、浮かんでくるのは、ただ、雑然とした玩具箱のやうなものだ。（略）霧の向うから強くさしこむ、これらの光をのぞいたあとは、めったに思い出したこともない玩具箱の中で、なにか仔鼠のやうなものがこそこそ音をたてているばかりである。しかし、すべてにわたって掃除の大嫌いなぼくは、べつだんネコイラズを仕掛けようとも思わない。」（『玩具箱』第20巻、363ページ）

ここには鼠の側から、鼠退治のための猫が、ネコイラズ（猫要らず）、即ち鼠を退治する毒薬として、また同時に『不思議の国のアリス』のチェシー猫、即ち謂はば「不在の猫」として在る猫として言及されてゐます。

それから重要なことは、安部公房は、子鼠ではなく、「仔鼠」と書いてゐることです。既に「『方舟さくら丸』の中の三島由紀夫」で上述しましたたやうに、安部公房が子供の子ではなく、『仔象は死んだ』の仔の字を用ゐる際には、これは存在の子供であること、生から見たら、この世にゐない死者に等しい、存在に生きてゐる子供であることを意味してゐます。とすれば、仔鼠もまた存在の子鼠であり、それ故に仔鼠なのです。

これが、鼠と猫、それも存在の仔鼠と不在の猫との関係なのです。これが、安部公房の世界の鼠と猫の関係、安部公房流のTom & Jerryの関係といふ訳です。

そして、上述のところによれば、玩具の猫は言語であるといふ事でありましたから、玩具の猫は不在の猫であるといふことになり、確かに言語は関数であり関係概念ですので、猫は不在であれば言葉同様に尚意味はなく、何かと何かの関係を接続する機能を、その不在性と空虚によつて、有してゐるといふことになります。ドーナツの穴のやうに。

これだけでも確かに、安部公房の猫は殺されねばならないといふ理屈にはなりません。」

この、現実の時間の中に存在する（この語義矛盾の）不在の猫を、安部公房は此のエッセイでは最後にどのやうに殺したか。

「いつか大通りで、車のヘッド・ライトの間を縫いながら、はためき狂っている大きな紙屑を見たことがある。風もないのに、奇妙だった。すれ違いざま、かろうじて、車にはねられ神経に失調をきたした猫のダンスであることが見分けられた。

あれが今までに見た、猫に関するもっとも美しいイメージだ。[1975.1.1]」

これが猫と仔鼠の関係ですが、しかし、この二種類の動物に限らず、同じ存在の仔鼠と不在の親猫または成人した猫の関係が、そのまま位相をズラして人間の親子の関係としてみると一体どうなるかと云ふと、これは同じ関係が成立すると云ふのが安部公房の世界です。この残酷な美しさについて、『密会』（1974年）刊行後のインタビューで安部公房は次のやうに述べてゐます。この場合、存在の仔鼠は溶骨症の少女と云ふことになつて、成猫である親猫の立場の猫の名前、即ち『密会』の不在の猫の名前は、いふまでもなく、といふべきでありませう、ペニスを二本持

つてゐる馬人間であつて病院の全体に盗聴器を仕掛けて盗聴してゐる副院長と云ふことになります。これは段々と話を整理してゐるうちに、二十一世紀の大手IT企業のGAFaと呼ばれる企業群とマス・メディア、そしてこれに対する社会と個人の話にそつくりになつて来た。安部公房健在なり。きつとGAFaの社長だとかマス・メディアの社長だとか、全体・極左・共産主義勢力に帰属する政治家だとか、男ならば彼奴等は皆ペニス二本つつ持つてゐるのだ。それでは、女の政治家とか女の社長は一体どうなつてゐるのだ？それあ、勿論……。

本題から外れて来たので、話を戻します。さて、

しかも此のエッセイによれば既述の次第で、この成猫と仔猫たちとの関係は実の親子関係ではなく、餓えを媒介にして（しかし相反発しはふ）擬似的な親子関係であると云ふところが、安部公房らしいことなのです。

そして、この擬似的な親子関係と云ふ全ての作品に見られる関係は、一体最後にはどのやうな結末を迎へるかといふと、次のやうな結末を迎へるのです：

「化猫の伝説こそ、唯一の正しい人間の直観かもしれないのだ。そして猫に嫉妬した子供は、いずれ親を憎むことになる。」

存在の仔鼠と不在の成猫との関係にあつて、この関係を仔鼠が否定するのか、猫が否定するのかと云ふ場合があるでせうが、この否定を擬似親子関係で行ふと云ふ位相をズラした場合も含めると、殺された不在の成猫は化猫になり、殺人者を恨んで化けて此の時間の世の中に出てくる。そして「猫に嫉妬した子供は、いずれ親を憎むことになる。」とあるので、擬似親を殺す子供とは存在の仔鼠なのであり、親とは擬似親であり、不在の成猫なのである。

此処でも安部公房の論理の常で、血縁の人間の親子も猫の親子も一切論じてゐないし、論理展開上の必要性にも言及してゐない。と云ふことは、これは純然たる論理の世界の話であり、現実の話ではないのである。それ故に、全集のあちこちで話がこのところに及ぶと、自分の小説を寓話だとよくいふ人がゐるがさうではないと云ふ反論をするのは、この故でありませう。何故なら、ことは安部公房の小説観と世界観に関はることだからです。技術の問題は常に本質の問題に、いつの間になつてしまふ。本質を論んずると、いつの間にか技術の問題になつてしまふ。と云ふ此の不思議については、ソクラテスがプラトンの何処かの対話の中で述べてゐて、その通りのことでした。

擬似親であり、不在の成猫であるこの猫は、いふまでもなく、雌猫ではなく、雄猫

であることを最後に追記して置きます。

日本の近代文学史の上で、この安部公房の猫殺人論は、夏目漱石の『吾輩は猫である』の位相をズラして人称を一人称から三人称にした『人間は猫である』論です。また、安部公房と夏目漱石の文学史的な位置関係については『夏目漱石と安部公房～日本文学史上の安部公房の位置について～』で論じましたので、これをご覧下さい（もぐら通信第31巻）。第31巻のダウンロードは：<https://docdro.id/FsuIpl7>

さて、先の戦時中に下宿の庭に紛れ込んできた猫を撲殺して食べた話をそのまま引用します：

「戦時中、下宿の庭にまぐれ込んで来た猫を殺して食べたことがある。極度に飢えていたし、罪の意識はまったくなかった。木の枝にくくりつけて、木刀でなぐり殺したのだが、なかなか死なず、すさまじい悲鳴をあげつづけるのには辟易した。医学部の学生だったので、解剖用具はそろっていたし、料理には手間取らなかった。下宿のおかみさんから七輪を借りて焼肉にして食べた。味のことはもう覚えていない。七輪の借賃のつもりで、猫の後肢を一本、かみさんに届けることにした。ドアを開けると、小さな二人の子供を抱えるようにして、後じさりながらうめき声をあげ、気圧されたぼくは早々に逃げ返った。しばらくして、裏庭のほうから七輪を叩き割る音が聞こえてきた。翌日、正式に書面で立ち退きの申し入れがあったが、黙殺した。理由を納得できなかったからだ。

かみさんは、あきらめきれなかったらしく、同宿の法学部の学生に相談したようだ。あいにくその学生は、中国人の留学生で、ぼくと同じくらい飢えていた。ぼくの犯行に刺戟された留学生は、その晩、近所の大きな門構えの庭に侵入し、その飼犬を捕獲しようところみて失敗した。逆に尻を咬み切られてしまったのだ。狼狽したかみさんは、こんどは医学生であるぼくに相談するしかなかった。こうして万事円満におさまり、その後しばらくの間、下宿の食事が多少向上したような記憶もある。」

この話を読んで、腹を抱えて笑ふのが、安部公房の読者。そして、怒りの声を偽善的にあげるのが、安部公房の使用法でこの用語を政治的文脈から少しずらして揶揄すれば、それがファシスト。何しろ飢えてゐるのである。飢えた子供の前で文学は有効か？ふざけるんぢあねえ。生きることが肝心だ。そんな温かい暖炉の側で安楽椅子に座りながら、高級な夕食を食べ終はつたあとに、スコッチ・ウイスキーを啜りながら、飢えた子供の前で文学は有効か？無効に決まつてゐるだらう、そんなもなあ。と毒づいて、貧乏生活に甘んずるのが安部公房の読者、この論理の隙間を大衆に隠して扇動をし、印税でしこたま儲けて安楽な、飢餓とは無縁の生活を送るの

が偉大なる偽善豊かなる痴識人。貧富の格差の問題を解決するのは政治の仕事。それでは、一体文学は何の問題を解決するのだ？

ところで、再度上の迷い猫撲殺の引用を読んでもらいたい。前半は本当かなと思ふのであるが、どうも下宿のおかみさんと中国人の留学生の話あたりから、何だかこれは安部公房一流の作り話ではないかと云ふ臭覚が働くのであるが、あなたに於かれては如何か。そしてまた、かうも思つてしまふのである。後半が作り話ならば前半も作り話なのではないかと。と、かうなるともはや、安部公房ワールドからの脱出は不可能で、あとは安部公房ワールドの全ての主人公たちと同じく、失踪する以外には方法は残されてゐないと云ふことです。

安部公房も三島由紀夫もともに、自分の中の可愛らしい筈の子猫をくびり殺し、撲殺して仔猫と云ふ化け猫になつてすら此の世に出てこないほどに何かに意志の力で変形させなければ、二十世紀に彼我の文学の違いを問はず作家として生きることができなかつたと云ふ壮絶な精神と方法論と方法と心理については、二人の生きた時代を背景にして、二人の対談『二十世紀の文学』の至るところで対話をしてゐるので、二十世紀の文学の真髓を知りたい方は、この対談をお読み下さい。当然に、世界のさまざまな国の文学も含めて、日本の国の日本語の二十一世紀の文学もまた、此の二人の議論の延長線上にあるのですから。特に三島由紀夫がトーマス・マンについて語るところに両者の此の残酷を共有する機縁があります。「猫がきらいなのは、エゴイストの証拠なんだって。」（戯曲『友達』の長女の科白）

安部公房は犬が好きであり、三島由紀夫は猫が好きであつた。

追記：

『何故安部公房の猫はいつも殺されるのか？』（もぐら通信第58号）で論じた通り、猫はリルケの天使を安部公房が変形させた姿でした、さうしてその天使、あれほど読み耽つたリルケの天使を猫として撲殺した。三島由紀夫も間違いなく『もはやイロニイはやめよ』[註]といふ詩を書いた二十歳の時に同じことをした筈です。あるひは、その10年後に時間をかけて肉体を鍛へ始めることで、残りの時間をかけて、それを成し遂げた。誰のためにか。そして、三島由紀夫は己の何を己の手で殺したか。

もはやイロニイはやめよ

もはやイロニイはやめよ

イロニイはうるさい

巷には罹災者のむれ

大学は休講つゞき

大学生はやたらに煙草を吹かす

湊（みなと）の霧のなかで数しれぬ帆柱に

またたく

橋灯（しやうとう）のやうに

来ぬ教授を待ちながら

大学生は煙草を吹かす

もはやイロニイはやめよ

もはやイロニイは要らぬ

急げ今こそ汝の形成を

汝の深部に於いてより

汝の浅部に於いて

ああ汝の末端に

急げ今こそ汝の形成を



私の本棚（35）

小松左京・安部公房対談

『小松左京自伝 実存を求めて』を読む

岩田英哉

メタSFマニエリスム作家荒巻義雄氏より最近掲題の本に安部公房のことが出てくるといふことを教はり、早速内容拝見、次の3つの点で紹介する価値ありと判断したので、以下の目次でお伝えしたい。SF文学の好きな方で此の本をお持ちでない方は、お読みになると、当時の日本のSF文学勃興期の熱風が伝はてきます。さうして、1950年代、1960年代、さうして1973年に安部公房・小松左京の対談『日本の理想国家はカナダだ』のあつた年に、安部公房は『箱男』でベストセラーを出し、小松左京は全く正反対の性格を有する小説『日本沈没』でベストセラーを出すといふ此の時代背景もまたよく私たち安部公房の読者にも伝はつて来ます。

紹介する価値三つ：

（1）小松左京、といふことは日本のSF文学者から安部公房がどのように思はれてゐたかがわかる。

（2）小松左京の『日本沈没』は国家を舞台に如何に日本人は生きるべきかを問ひ、対して安部公房は都市を舞台に個人としての私たちは如何に生きるべきかを問ふた作品であることがわかるわけですが、何故このやうな作品が当時、同じ時代を共有して書かれねばならなかつたのかがわかります。

（3）安部公房と小松左京は、前者1924年、後者1931年で、7年違ひですが、しかし、この差異は二人の間にはなく、旧制高等学校に学んだ二人の読書体験と教養は共通してゐることがわかります。同じ本を読まねば安部公房を理解できないとまでは強弁するつもりはありませんが、しかし二人がどんな書物を読んだかを知って置くことは、安部公房の文学を理解するために十分条件ではありませんが、更にしかし、必要条件であることがわかります。

（4）SF文学が仮説設定の文学であることは、小松左京にとつても最初から当たり前の文学観ですので、この文学観が当時の、そしてひよつとして今にあつても、少なくとも明治時代以来の近代日本文学の既存の文学観から見ると、実に異端に見えたことがよくわかります。しかし、むしろ事情は逆で、既存の文学界と文壇の方が新しい海外の文学の摂取に怠惰であつたといふのが私の所見であることは何度か他の論考で既述の通りです。この小松左京の自伝は、日本の文壇文学の衰退の原因の、図らざる解説になつてゐます。

以上の理解を元に、次の目次とします：



1. 初期安部公房の教養の出所
2. 『S・カルマ氏の犯罪』および思考実験と小説（仮説設定の文学）
3. 1973年といふ『箱男』時代
4. SFが常にメタSFであり、メタ・フィクションである理由：SF作家の言語感覚または言葉に対する感受性（センス）

1. 初期安部公房の教養の出所

「ダンテの『神曲』に感銘

最近、昔話を始めると止まらなくなる。昨日のことは往々にして忘れるのに、少年時代の思い出は日々、鮮やかになるばかりだ。

とりわけ、あの戦争を挟んだ旧制中学の回想は、セピア色の記憶が戦況悪化とともにモノクロームに褪色し、終戦に合わせてやがて天然色に輝きだして、書きたいことが次々わいてくる。多感な年ごろだった。

もうひとつだけ中学時代のことを書く。十三世紀から十四世紀にかけて活躍したイタリアの詩人で作家のダンテの『神曲』のことだ。私の生涯に大きな影響を与えた一冊の本を聞かれたら、『神曲』と答えるだろう。お調子者で、バンカラな校風の神戸一中で教師や先輩たちから目の敵にされたが、中にはすばらしい先生もいた。私の作文を褒めてくれた津田先生がその代表だ。

一年生の時だった。「朝起きた。まだ眠い。外は寒い。阪急電鉄の今津駅まで歩いて行かなければならない」といった具合の他愛ない作文を「面白いなあ」と絶賛して、私を図書委員に推薦してくださったのが津田先生だった。バンカラが売り物の神戸一中の校風と私のキャラクターとは相容れないものもあったけれども、津田先生は私の恩人である。

図書室にはたしか新潮社の「世界文学全集」があつて、その第一巻が『神曲』、二巻が『ファウスト』と同盟国のイタリアとドイツの文豪の作品が並び、三巻が『あゝ無情』だったと記憶している。どんどん読んで行った。

(略)

『神曲』の影響もあつて、私は小説には奇想天外、波瀾万丈の醍醐味が絶対に必要なんだと思っていた。それからユーモア。まじめくさって人生を説くのではなく、笑いのセンスが文学の大事な隠し味だ、と考えるきっかけをつくってくれた。」

(同書31ページから32ページ)

初期安部公房の傑作の一つ『S・カルマ氏の犯罪』所収の一作「バベルの塔の狸」にダンテは出てきます。まだ他にもあるかも知れません。

小松左京のいふ「『神曲』の影響もあって、私は小説には奇想天外、波瀾万丈の醍醐味が絶対に必要なんだと思っていた。それからユーモア。まじめくさって人生を説くのではなく、笑いのセンスが文学の大事な隠し味だ、と考えるきっかけをつくってくれた。」といふ言葉は、旧制高校の校風とは別にして、安部公房の場合には東京の成城学園高校といふ自由な校風の学校でありましたから、小松左京は反発から、安部公房はその天然の持って生まれた笑ひとユーモア、これまでの安部公房諸論を書いてきて知るところによれば、父安部浅吉の持つこのセンス（感覚）は確かに安部公房の文章にも受け継がれてみますので（例へば、浅吉が京都帝国大学に提出した博士号学位論文の出だしの数行は講談調を感じさせます）、『神曲』といふ作品も同様の影響を与へたか、当時の文学的環境に同様の影響力を持つ作品があつて、そのやうな安部公房文学が生まれたかと想像することができます。

また、「図書室にはたしか新潮社の「世界文学全集」があつて、その第一巻が『神曲』、二巻が『ファウスト』と同盟国のイタリアとドイツの文豪の作品が並び、三巻が『ああ無情』だったと記憶している」とある文学全集と同じものを、安部公房は奉天で読破（多分、安部公房のことですから）してゐます。『新潮社日本文学アルバム 安部公房』より「略歴年譜」から引用します。これを見ますと、安部公房が同じ全集を読んだ時期は小松左京より早い中学生時代です。多分察するに、この文学全集といふ個人宅での選択は、母親の小説家でもあつた安部よりみによるものと思はれる。

「昭和十一年（1936） 十二歳

奉天千代田小学校を経て、奉天第二中学校に入学。自宅にあつた新潮社版『世界文学全集』、第一書房版『近代劇全集』を読む。（同書104ページ）

安部公房にとつての千代田小学校での担任の宮武先生、そして高等学校での安部六郎が、小松左京にとつての津田先生といふことになります。どんな人にも3人、このやうな自分の人生にあつて大切な、自分の能力を認めてくれた先生と呼ぶべき、その後の人生に影響を与へた教師があるのではないでせうか。

2. 『S・カルマ氏の犯罪』および思考実験と小説（仮説設定の文学）

「安部公房にも心酔した。シュールでアバンギャルドだけでなく、SF的な手法の安部作品を次々に読んだ。昭和二十六年、『壁——S・カルマ氏の犯罪』が芥川賞を取ると、私は踊り上がった。「SFはこどもだましではなく、立派な文学なんだ」と大いに勇気づけられた。」（同書46ページ）

「小松 （略）二乗するとマイナスになる数って中学で習って、そんなものを仮定して何の役に立つのかと思ったよ。でも、虚数がないと量子力学も電子工学も成立

しない。虚数は英語でimaginary numberで、だから「i」で表わされる。考えてみたらSFの成立とよく似てるだろ。

——たしかにそうですね。

小松 文学に虚数を導入しようとしたのは僕よりずっと前で、安部公房の芥川受賞作の『壁——S・カルマ氏の犯罪』なんだね。それともうひとつ、戦後すぐ『近代文学』という同人誌に第一回が載った埴谷雄高の『死霊』。「思考実験」という言葉はそれで初めて知ったんだ。僕は毎日新聞で埴谷さんにインタビューしたことがあって（一九九三年八月十六日～九月九日夕刊、『埴谷雄高対話集 瞬発と残響』所収）、彼はドストエフスキーの『カラマーゾフの兄弟』にもものすごく影響を受けたと言ってたけど、あの中の「大審問官」の章を『死霊』の序文でざっと紹介して、そのときに「虚体」ってコンセプトを出してる。」（同書286ページ）

虚数と和訳すると誤解をしますが、imaginary numberといふ英語に当たると、なるほどと思ひ、安部公房の作品の登場人物は皆、imaginary characters・虚数人物・陰画人物だといふことになつて納得します。その代表的な主人公が、周囲の景色にあるものならば何でも陰圧で吸い込み、胸の中にネガ・フィルムの映像で外部を内部に定着させるS・カルマ氏であるといふことです。

小松左京の大学時代に愛読した作家は、

「ドストエフスキーはあいかわらず好きで、H・G・ウエルズもずっと読んでいた。それから実存主義的なものではカミュ、サルトルからキルケゴール。哲学ではアリストテレスからライプニッツ、ハイデggerあるいはフッサール。もちろんダンテ、ピランデルロ、トーマス・マン、マルロー。日本のものでは野間宏、安部公房、埴谷雄高、中島敦なんかかな。それと僕はウィリアム・フォークナーがものすごく好きだったんだ。」（同書368ページ）

3. 1973年といふ『箱男』の時代

まづ最初にこの時代がどのような時代であつたかを、井尻千男著『産業知識人の十代 成熟社会の構図を探る』（昭和五十七年/1982年。PHP研究所刊）が、よくまとめて記述してくれてあるので、これによつて箱男と日本沈没の時代を見てから小松左京の自伝にある文章に入りたい。

昭和元禄と呼ばれたのが「高度経済成長期の天下太平、奢侈(しゃし)安逸の時代をさした語。昭和39年(1964)に、福田赳夫が言い出した語」で（デジタル大辞泉：<https://kotobank.jp/word/昭和元禄-533800>）、1970年代の前半は、この奢侈と贅沢の余波と気分のまだ残つてゐるのですが、しかし他方、このあと引用する井尻千男の文章は当時の時代の経済が今の日本と同様に非常に暗いものであるこ

とを伝えてくれ、私たちに何が起つて何故時代相が、といふことは私たちの心理がといふことですが、そんなに暗いのか。「産業知識人の登場」の章より出だしを引用します（同書63ページ）：

「七十年代の前半は、国際的にも大きな事件が三つあった。一つは七十一年（昭和四十六年）の「ニクソン・ショック」であり、一つは七十三年（同四十八年）の「石油ショック」であり、もう一つは「沖縄の返還」と「日中国交正常化」である。沖縄返還と日中国交回復は、明らかに「戦後の終結」を告げていたが、ニクソン・ショック（ドル・ショック）と石油ショックは、新たなる「経済戦争」の開幕を意味していた。

小松左京氏の『日本沈没』が大ベストセラーになったのは石油ショックのさなかであり、不吉な予感が世の中を風靡した。高度成長期の昭和元禄ぶりとは天と地の違いで、深夜のテレビが短縮され、街のネオンが消え、日曜日にはガソリン・スタンドが閉鎖され、省エネルギー、減量経営が叫ばれた。石油ショックと円高危機を、日本経済がどのように乗り切ってきたかは、おそらく戦後日本の最大のドラマだったとあって良いであろう。」（同書63ページ）

さて、この、当時の現状認識と小松左京の『日本沈没』との関係について、作者は次のやうに述べて回想してゐる（『小松左京自伝 実存を求めて』の「第6章 日本沈没」76ページから77ページ）：

「書き始めた動機は戦争だった。本土決戦、一億玉碎で日本は滅亡するはずが終戦で救われた。それからわずか二十年で復興を成し遂げ、オリンピックを開き、高度経済成長の階段を駆け上がって万博。日本は先進国になった。私もその渦中を駆け抜けたのだが、豊かさを享受しながら、危うさや不安がいつも脳裏にあった。日本人は高度経済成長に酔い、浮かれていると思った。あの戦争で国土を失い、みんな死ぬ覚悟をしたはずなのに、その悲壮な気持ちを忘れて、何が世界に肩を並べる日本か、という気持ちが私の中に渦巻いていた。のんきに浮かれる日本人を、虚構の中とはいえ国を失う危機に直面させてみようと思って書きはじめたのだった。日本人とは何か、日本とは何かを考え直してみたいとも強く思っていた。」編集部が作品の余りの長大であるのでこれでは売れないと判断して双方の間に起きた一種の戦ひについて書いた後で、小松左京は次のやうに、売れないといふ作者もしてゐた期待が見事に裏切られたことについて書いてゐます：

「『日本滅亡』や『日本漂流』の題名にもこだわったのだが、「暗すぎる」という声が挙がって、結局『日本沈没』に落ち着いた。世に出る前にすったもんだが続き、ケチがついたやうな気がして「やっぱり売れないだろうな」と思っていた。

ところが、売れたのだ。」

「日本が海中に没した後、流浪の民になった日本人たちが大挙して海外に移住して、どんな軋轢を生み、それをどう乗り越え、日本人としてのアイデンティティーを確立していくのか、外国に行って考えたいこと、調べたいことが山ほどあった。」といふことで、編集者と二人で取材と慰労を兼ねて、海外旅行に出る作者ですが、ここで一体どれ位凄まじい売れ行きだったのかといふことが次に続いて書いてあるので引用します：

「まだ成田空港はできていないから、羽田空港から旅立った。濱井君〔引用者：同道した編集者の名前〕が「先生、ものすごい売れ行きです。一日三万部のペースで売れています」と興奮気味に言った。

上下各三万部の初版は書店に並ぶ前に増刷がかかり、出発前にはすでに二百万部を超えていた。旅の先々で濱井君が会社に入電話を入れる度に五万部の増刷。二十日間の旅行中だけで百万部を突破しそうだ、と聞き、編集部に「止めてくれ!」と電話した。税金が恐ろしかった。」

この先が傑作なので、あと少しだけ引用をゆるさされたい：

「当時の累進課税はすさまじくて、国税が七五％に地方税が二〇％
どんどん税金で吸い上げられるわけだ。実際、莫大な額の税金を取られた。父が
「まったく悪い時代だ。昔ならお前は貴族院議員になって、子どもは学習院に行けるのに」と言った。」

「のんきに浮かれる日本人を、虚構の中とはいえ国を失う危機に直面させてみよう
と思って書きはじめた」といふ『日本沈没』ですが、歴史小説を書くに際しても当時のこの昭和元禄の消失後の残影の中にあっても尚危機感のない日本人の姿に対していふ作者の言葉は、そのまま安部公房の『榎本武揚』に通じてみて、その解説になつてゐますので、引用します。つまり、安部公房の唱へた仮説設定の文学は、何も安部公房一人の専売特許でもなければ、孤立した文学的本質論の提唱でもなく、SF作家の常識であつて、SF文学とはこのやうにメタ・フィクションであることを小松左京の言葉は語つてゐます。メタ・フィクションを超越論と言ひ替へても同じです。

「〔引用者：戦争に〕負けたけど助かったと思つてほつとしたけど、「一億玉砕」
がずっと頭に残っていたんだ。実は『日本沈没』（1973）もそれなんだよ。日本が孤立してどこも助けてくれない状況。それを扱うのに、今度は世界から日本を消してみると。だからあの作品の第二部は、国土を失った流民難民の日本人が世界の中でどう生き延びてゆくかってことなんだな。」（同書193ページから194ページ）

以上は日本を取り巻く国際情勢に関しての小松左京の言葉ですが、これに対して国内情勢に関して、井尻千男は、次の三つの事件を挙げてみます：

- (1) 万国博覧会
- (2) 赤軍派学生による「よど号ハイジャック」
- (3) 三島由紀夫の割腹自殺

(1) については、「万博は、高度成長と国際化という六〇年代のスローガンに、未来論を結合させた巨大なイベントだった。会期六ヵ月の入場者数がなんと六四二一万人にのぼった。ほぼ国民の二人に一人が逢坂・千里へ足を運んだ勘定になる。この驚くべきモビリティの高さこそ、高度経済成長を推進した日本人のエネルギーだったともいえるだろう。

万博のもう一つの隠れた意味は、官界、産業界と広範な知識人との間に対話が成立し、協同作業が行なわれるようになったことである。」

(2) については、赤軍派学生による「よど号ハイジャック」事件は、万博の開会式直後の三月三十一日に起こった。二年前の「東大安田講堂占拠」で頂点に達した新左翼運動は、よど号事件で明らかにカタストロフィー（悲劇的結末）の段階に入っていた。そのことは二年後（1972年）の「浅間山荘銃撃戦」と「大量リンチ事件の発覚」によって証明される。妙義山中で発掘されたリンチ死体は、実に十二体に及んだのである。

この凄惨を極めた、おぞましい事件は、戦後日本の破産をはっきりと宣告した。決して一セクトの自壊というようなものではなかった。もうそこには、革命という言葉が喚起するある種の崇高さとか、ある種のロマンチズムはみじんも残っていなかった。ただひたすらに無惨であった。

別の言い方をすれば、このとき戦後日本の憑物（つきもの）の一つが確実に落ちたのである。私はこのとき、多くの人々が遁走する足音を聴いたような気がする。」（同書59ページ）

(3) については、「「三島事件」は、戦後に起こった事件の中で最も語りにくい事件だった。割腹、介錯、落ちた首。この凶柄があまりにもショッキングだったために、人々はそこから眼をそらすか、ひたすら拒絶の姿勢をとるほかなかった。三島自身も、人がうかつに近づくことを明瞭に拒否していた。政治的には後にづくことを促しながら、感覚的にはいっさいの人間を拒否していた。おそらく、三島に近い人ほど、強い拒否を感じとっていたにちがいない。」（同書60ページ）

此処からの引用は少し長いかも知れませんが、二十一世紀の今日に至る此の交通標識の指し示す道が、この道の依然として延長にあつて、これが軌道と化して、私た

ちは惰性で毎日を生きてゐるのだといふことを教へてくれてゐるからです。

「三島が人々に突きつけたのは原理原則論と論理的一貫性の狂気だった。その世界は、美しく整合していたかもしれないが、曖昧で相対的で両義的な人間の住処（すみか）ではなかった。三島が自裁したのは、内なる曖昧さと、外なる曖昧さを一挙に裁くことだったが、それを目撃した人々はいっせいに遁走した。人間はなによりもまず生きねばならないのだ、と呟きながら。」（同書61ページ）

「どこからどこへ遁走したのか。そこには、いろいろの経路があった。原理論から政治的状況論へ。この許しがたい人間というペシミズム（悲観主義）から、この愛すべき人間というオプチミズム（楽観主義）へ。虚妄なる絶対主義から曖昧なる相対主義へ。観念論から現実主義へ。

この遁走の過程において、文化人類学的発想が果たした役割は、ことのほか大きかったのではなからうか。手品師が出すカードのように、ここでは文化の尺度が次々に出てくるからである。三島のような正統的な保守主義者にとって、人類学は相対主義の地獄のようなものに映ったかかもしれない。三島由紀夫は、戦後精神を猥雑なものとして呪詛し、憲法改正とあるべき国軍の創設によって日本を立て直そうとした。しかしその死は、古典的保守主義の復興にはつながらず、かえってそれを道連れに逝ったようにすら思える。

こうして、七〇年代の劈頭に起こった二つの事件は、極左の自壊と、極右の自爆でもあったとも、いえる。両極からの衝撃波を受けて人々は中間に集った。そして、万博はその中間に位置しながら、現実的、具体的、実務的な精神の豊かな可能性を予告していた。」（同書61ページから62ページ）

以上の引用をまとめますと、二十一世紀の今、私たちは次のやうな状況にゐることが判ります。即ち、

私たちは依然として、極左の自壊（未来に妄想したイデオロギーによる現在での殺人）と極右の自爆（後生のための現世での自死）の中間にあるのが、万国博覧会であり、この盲信的に歓迎して讚美してゐた万博が依然としてグローバリズムとして延長線上に跳梁跋扈してゐるといふことであり、今これから、といふよりも30年前から、正確にいふならばベルリンの壁の崩壊した1989年から既に、万国博覧会ではなく、内国博覧会を毎年開催するべきであつたといふことです。即ち国内で産業を国内博覧会が開催できるまでに育てるべきであつたといふことです。

しかし、この間この後「それはともあれ、こうして両極の観念から解放された人々は、やっと裸の現実と対面し、それがどうやら是認してよい状況にあることを発見し、「現状を肯定」する言葉を探るようになった。これが七十年代の時代意識の基

本的構図といってよいだろう。思えば、明治維新以来、近代化百余年にして、やっと「現状肯定」という歴史意識にめぐりあったのである。戦前のナショナリズムがいかにか激しかろうとも、これほど甘味な現状肯定の美酒は飲めなかった筈である。」（同書62ページから63ページ）といふこの「これほど甘味な現状肯定の美酒」を、無反省に飲み過ぎたのが1980年代であつた其の風俗と流行については、西村幸祐著『幻の黄金時代 オンリーイエスタデイ'80s 1980年代から透視する21世紀の日本』に詳しい。私は井尻千男著『ベストセラー社会学 流行の言説 不易の思想』および『消費文化の幻想 オーソドックスとは何か?』とともに、此の三冊を1980年代を参照し21世紀を考へるための辞書として手元に置いてゐる。

歌を忘れたカナリヤは、後ろの山に捨てましょか
 いえいえ、それはなりませぬ
 歌を忘れたカナリヤは、柳のむちでぶちましょか
 いえいえ、それはかわいさう

日本人が歌を忘れたカナリヤならば 歌を想ひ出すことが処方箋といふことになります。後ろの山に捨てたり、柳の鞭でぶつのは誰の仕事か？それは、あなたの仕事です。大いにやつて欲しい。

4. SFが常にメタSFであり、メタ・フィクションである理由：SF作家の言語感覚または言葉に対する感受性（センス）

小松左京は高橋和巳と京都大学で親友となりました。意見はいつも対立して激論になつたが、二人が共有してゐたものが此の感覚だと小松左京は述べてゐます。それは、

『リーダーズ・ダイジェスト』の記事の余白に載つた「世界が滅んだ。昨日」

といふ一行だけのショートショートで、これを小松左京に教へてくれたのが高橋和巳でした（同書「特別編387ページ」）。

『リーダーズ・ダイジェスト』といふ雑誌は今も無いアメリカの雑誌で、忙しいビジネスマンのために各種書籍の要約（ダイジェスト）を提供して読者の利便に供するといふ目的で創刊されてゐた月刊誌で、これは日本でも毎月翻訳版の日本語版が出てゐて、私も小学生の時に家にあつたので良く読んだ記憶があります。高橋和巳の示したものは「記事の余白」といふよりは毎月意図されて置かれてゐる枠囲のコラムといふべきもので、ここにはアメリカの漫画や一口の艶笑話を含めた笑ひ話も載つてゐたので、これは後者です。このコラムは実によかつた。

「世界が滅んだ。昨日」、この一行と同じ論理と感覚（センス）を私たちは「講釈

師、見て来たやうな嘘を言ひ」と呼びならはして来たのです。楠木正成父子の櫻井の別れを一体誰がその場にゐてみてみたのだ？一体「「世界が滅んだ。昨日」といふ一行を口にする当人即ち（読者にとつての）話者は一体どこにゐる誰なのだ？といふことが此処で問題になるわけです。これを例へば、トーマス・マンならば『選ばれし人』の冒頭第一行では「物語の精神」と呼び、語られるところならば至る所に遍在する精神である。マンはこの枠組みを予め設けてから本題に入るといふメタ・フィクションの最初の一手、初手の石としてゐます。このやうに考へると、話法といふ視点で眺めれば、古今東西、世界中の小説や物語の類は大小長短を問はず、みなメタ・フィクションであり、SF文学である。

これをもつと理屈つぽく、言語論理で説明しようとしたのが、古代ギリシャ人で、その哲学者の一人にエピメニデスといふ人がゐて、世にいふ「嘘つきのパラドックス」といふのが其れで、「「世界が滅んだ。昨日」といふ一行が真か偽かといふ問と答の関係に同じことなのです。文法学では、これを話法（モード・mode）と呼んでゐる。一体誰が何処に居てその文を言つてゐるのか？といふ問に対する答が話法の問題です。即ち、クレタ人であるエピメニデスが次のやうに言つたといふのです。

「クレタ人は嘘つきだ」とエピメニデスは言つた。

今の世の情報戦争のプロパガンダも、結局文法学の話法の問題なのである。といふことに、言語の観点からはなるのです。なるほど、これでは物事が単純になり過ぎて、詰まらない？それでは極め付きの一行を。

「安部公房は嘘つきだ」と安部公房は言つた。

私たち読者の救ひは唯一、安部公房全集にはこんな一行を安部公房は書いてゐないといふことです。それ故に、私たちは安部公房の読者である。しかし、もし「安部公房は嘘つきだ」と安部公房は言つた。といふ一行が書いてあるのをあなたが発見したら？やつぱり、さうであつたかと、あなたは納得することせう。いづれに転んでも私たちには問題はない。かうして毎晩、私たち読者は、作者に裏切られることなく安眠できるといふわけです。即ち、安部公房独自の話法「僕の中の「僕」」といふ話法によつて、私たち読者の安眠は絶対的に保証されてゐる。もつとも作者の方は、この話法によつて花王石鹼の商標にそつくりな三日月の笑ふ月だとかインディアンの一隊だとか燃え上がる仔象だとか、夜昼を問はずに夢を見過ぎる嫌ひがあるわけですが。それでは、次の一行は一体どういふ意味になるのだ？

「安部公房は嘘つきだ」と安部公房は言つた。



二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック

Part I

塔の文学

(1 1)

目次

Part I 塔の文学

1. 森鷗外の塔と夏目漱石の塔
2. 江藤淳の塔と三島由紀夫の塔
3. 三島由紀夫の塔と安部公房の塔
4. 安部公房の塔と埴谷雄高の塔
5. 小林秀雄の塔と安部公房の塔
6. 安部公房の塔と大江健三郎の塔
7. SF文学史を伝統的な日本文学史に上位接続 (conjunction) する
- 7.2 一体二つの文学史はいつ何処で上位接続して一体となったのか
- 7.2.1 何故川端康成は安部公房の『壁』を芥川賞に推したのか
- 7.2.2 「安部公房の読者にしか書けない『美しい星』論」から引用して、二つの文学史の同時代性の重なるの文学的な潮流を吟味する
- 7.3 ヨーロッパの近代小説とは一体何であつたのか？
- 7.4 そもそも日本文学に云ふ小説とは何か
8. 安部公房の塔と倉橋由美子の塔
9. 夏目漱石の塔 (F+f) と安部公房の塔 $\neg(F \times f)$

Part II 『文章読本』論

Part III 実践篇：小説『S・カルマ氏の逆襲』（英訳版・原題『The Fight Back of S. Karma』）：S・カルマ著 [翻訳] 岩田英哉

7.4 そもそも日本文学に云ふ小説とは何か

此処まで話が整理されて来ますと、別途論じてゐる『縄文紀元論』と併せて考えると、掲題の間には次のやうに回答することになります。

問：そもそも日本文学に云ふ小説とは何か

答：一義的には古代の和歌物語、例へば大和物語や伊勢物語が物語られる話としてある小説の起源であるといふことになります。即ち、和歌を含めた詩文のある物語が、私たち日本人の本来の小説であるといふことです。

そして、この和歌物語がさうであるやうに、和歌に対する添え書きまたは説明文が、その文章の長短を問はず、また話の種類を問はず、今の言葉でいふ小説である。

近代ヨーロッパの小説を輸入した此処150年余に書かれてきた小説と此の日本の伝統的な小説との関係はどのやうに説明がつくかといひますと、それは次のやうな説明になります。

小説のヨーロッパでの英語（を仮に選択します）でnovel・ノヴェルといふ言葉の和訳が小説です、何故小さいと云ふ文字を入れたかといふと、novelの末尾のelが縮小辞であるからです。それではこのnovelといふ言葉の意味する新しい話、耳目を集める話、聞いたことのない話、おやつと思ふやうな話といふ意味でのお話と普通に理解をして「註」、これにどういふ場合があり得るのかを考へると、次の三つの場合に当て嵌まる小説しかないといふことになります。

- (1) 自分の新奇な経験談を人に話す（経験談）
- (2) 人の新奇な経験談を聞き書きとして人に話す（伝聞談）
- (3) 自分の創作した新奇な話を人に話す（創作談）

これに対して、もう一つの軸として、私たちは古事記と日本書紀を古典として持つてゐるわけです。これを二つの小説のまたは物語の軸として考へると次の分類を得ることになります。

古事記：超越論の話で、因果律も目的と手段の連鎖にも無関係の時間を捨象した話の系譜。場合にはよつては、伝奇小説と呼ばれる。

日本書紀：事実を時系列で因果律と目的と手段の連鎖（人間の意志の連鎖）で記録した話の系譜

このやうに考へると、次のやうな日本語による小説の一覧表・マトリクスが出来上がります。古今東西の全ての小説は、どのやうな名前と呼ばれようと、この二つの分類、即ちこのマトリクスの組み合わせに収まる。組み合わせの視点は、話法・モード・modeです。

	2021/03/30 Eiya iwata							
		小説の分類 (V2)						
	分類1 (物語視点)							
		小説の話の型			備考1	備考2	備考3	
	小説の性格	経験談	伝聞談	創作談				
古事記	因果律によらぬ、超越論の(事実の存在する位相を別の位相にズラした)小説				お祓とミコト持ちの文学 [例: 井伏鱒二・石川淳・安部公房の文学]	天津の世界の文学		『縄文紀元論』に基づく
日本書紀	因果律の連鎖に従ひ単数または複数の事実を時系列に配置した小説				私小説	国津の世界の文学		
					(* 古事記と日本書紀の世界に行き来があるやうに、私小説とお祓の文学は登場人物が行き来をすることができる。			
	分類2 (詩文視点)							
	詩文	和歌						
		詩 (和歌以外の詩文)						
	散文	詩文に添へたる散文						
		詩文に添えざる散文						

[註]

nov·el

Definition of novel (Entry 1 of 2)

1 a: new and not resembling something formerly known or used

[新しい、そして以前には知られてゐたり使はれたりするものに似てゐない何か]

New technologies are posing novel problems.

b: not previously identified

transmission of a novel coronavirus

a novel genetic mutation

novel bacterial strains

2: original or striking especially in conception or style

a novel scheme to collect money

novel solutions

novel noun

Definition of novel (Entry 2 of 2)

1: an invented prose narrative that is usually long and complex and deals especially with human experience through a usually connected sequence of events

[発明された散文の話であつて、普通は長い複合的な話であり、特に事件が普通に結合されてゐる連続を通じて人間の経験を取り扱ふ話のこと]

2: the literary genre consisting of novels

Synonyms & Antonyms

Noun

novelistic

adjective

novelistically

adverb

Synonyms & Antonyms for novel

Synonyms: Adjective : fresh, new, original, strange, unaccustomed, unfamiliar, unheard-of, unknown, unprecedented [同義語：形容詞：新鮮な、新規な、独自の、不思議な、慣例にない、不案内の、未聞の、知らない、前例のない]

Antonyms: Adjective : familiar, hackneyed, old, time-honored, tired, warmed-over

Choose the Right Synonym for novel

Adjective

NEW, NOVEL, ORIGINAL, FRESH mean having recently come into existence or use. NEW may apply to what is freshly made and unused new brick or has not been known before new designs or not experienced before. starts the new job. **NOVEL applies to what is not only new but strange or unprecedented. a novel approach to the problem.** [小説とはは、新規であるのみならず、不思議でまた前例のないものに適用する。小説は問題を取り扱ふ] ORIGINAL applies to what is the first of its kind to exist. a man without one original idea FRESH applies to what has not lost its qualities of newness such as liveliness, energy, brightness. a fresh start

さて、上記の小説の分類に基づいて、次の二人の作家の塔を論ずることにします。

8。安部公房の塔と倉橋由美子の塔

(次号に続く)



糞尿と性愛の文学

～生殖器・排泄器同一社会論仮説～

(3)

岩田英哉

1。古事記の中の糞尿と性愛

1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（2）



目次

- 0. はじめに
- 1. 国家とは何か
- 2. 用語の定義
- 3. メディアとは何か
- 4. ネット・モナド論
- 5. 公私とは何か
- 6. 二階層戦争論とメディア論の関係
- 7. 政治形態と自由
 - 7.1 政治形態とは何か
 - 7.2 自由とは何か：私たちの自由およびlibertyとfreedomの違い
 - 7.3 ビルダーベルク会議とダヴォス会議と国家との関係
 - 7.4 **メディア・プロパガンダの構造**
 - 7.5 政治形態EとAの公私：一神教のtopologyの政治形態
 - 7.6 政治形態Jの公私：高天原のtopology（超越論）の政治形態
- 8. 経済形態と自由
 - 8.1 経済形態とは何か
 - 8.2 資本主義と政治形態Jを如何に一つにするか：江戸時代幕藩体制下の信用取引に学ぶ
 - 8.3 ネット・メディアの役割
- 9. 私たちは如何に生きるべきか
 - 9.1 学歴無用論：盛田昭夫著『学歴無用論』
 - 9.2 学問有用論：福沢諭吉著『学問のすすめ』
 - 9.3 グローカリストとしての千利休と後裔たち（令和時代の人間像）

7.1 政治形態とは何か

7.4 **メディア・プロパガンダの構造**

前章に述べた現在の二つのグローバリズム会議と国家の関係を述べて、これを国際政治の政治と経済の大きな、そして打ち壊すべき枠組みとして考へることを前提にして、このメディア・プロパガンダの章を始めたい。

何故、この章を書くかといへば、メディアに氾濫する情報を自分の頭で考へて慎重にこれらを濾過して、本当の情報である事実を知るといふ努力が私たち一人一人に日々求められてゐるからです。濾過といふのはフィルターの形象（イメージ）ですが、あるひは抵抗器・resistor・レジスターといふあなたの頭蓋骨の中

にある脳味噌に嘔ませる抵抗体といふ形象でも良い。要するに、手元に来た情報を鵜呑みにするなといふこと、親しい人が与えてくれた情報だから正しいといふ盲信は止めよといふこと、要するに、何らかの個別の判断の基準または広く通用するやうな或る適用範囲では絶対的である規準・クライテリア・criteriaが、あなたには、生きるために必要だといふことなのです。これからお話しますが、あなたの判断の基準と規準の形成に役立つことを願ふ。生きるためといふ意味は、自分の生命と財産と安全を守るといふ意味です。何故こんな当たり前のことを私が個人としていはねばならないかといふと、今の日本の国家は国民の生命と財産と安全を守らないからです。国家に依頼心を起こすと生命を失ひ、財産を失ひ、安全保障を失ふといふ意味です。

1. プロパガンダの構造

今まではマス・メディア（TVと新聞）を通じて行はれる日本国家（近代国家もマス・メディア利用してプロパガンダする）と外部のグローバリズムおよびマルクス主義勢力に対して警戒をすればよかつたものが、今はここ30年間日本人が惰眠を貪つてゐる間に中国共産党による超限戦にこれだけ酷く侵食されてゐるので（この理論の発表は1999年）、もはや宮崎駿監督の「となりのトトロ」といふ牧歌的な世界は消滅し、隣のドロドロといふべき隣人たちのゐる日本の国と、物理層および論理層ともに、なつてしまつた此の時代を如何に生きるかといふ問題の解決策または次善の策を考へて講じなければなりません。

私のプロパガンダの定義を再掲します：

プロパガンダの定義

プロパガンダとは、「大衆と、大企業や政治思想や社会グループとの関係に影響を及ぼす出来事を作り出すために行われる、首尾一貫した、継続的な活動」である。

[補足説明]

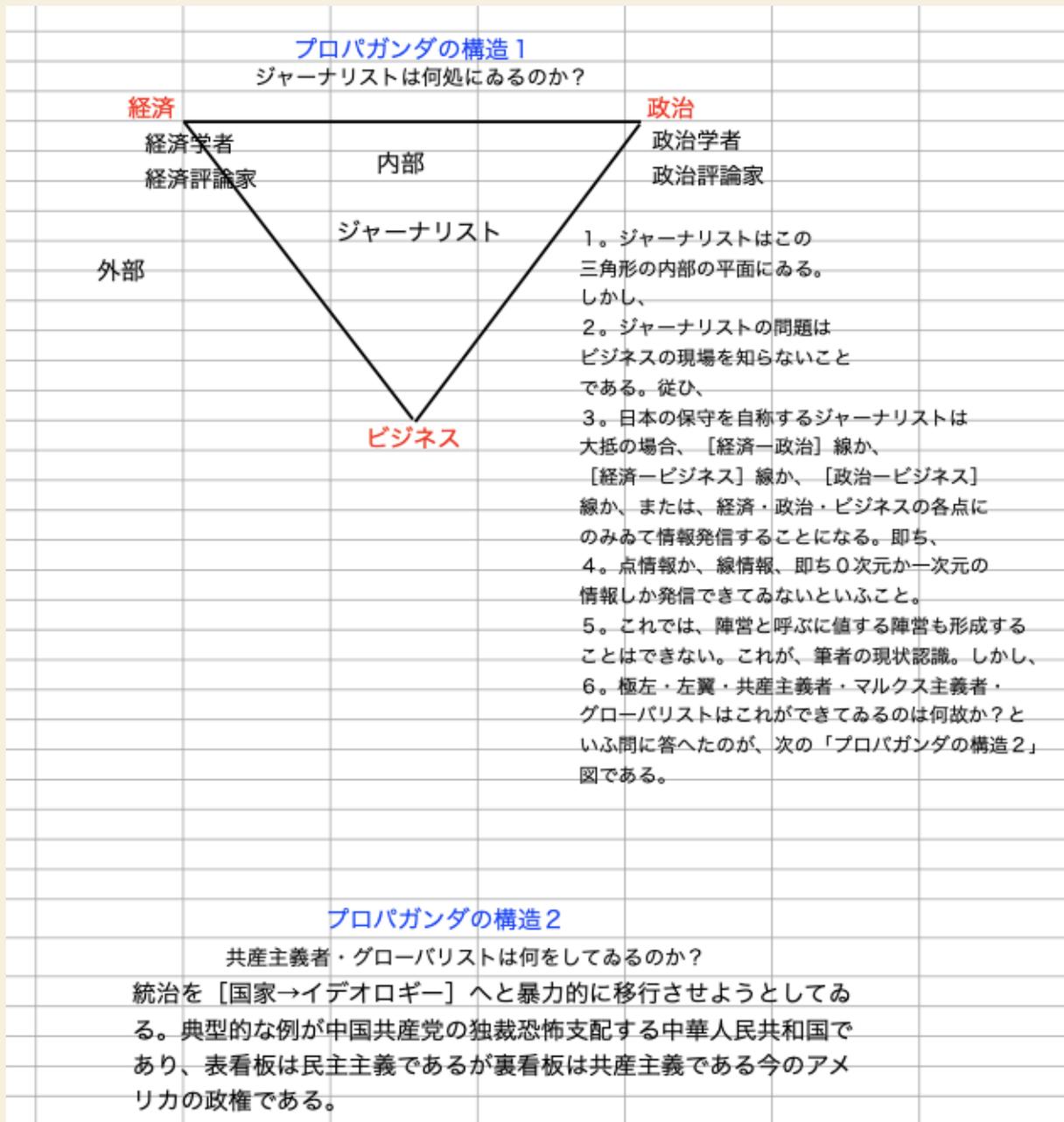
この定義は、エドワード・バーネイズ著『プロパガンダ』（49ページ）にある著者による定義である。同著翻訳者中田安彦による「訳者まえがき」によれば（同書21ページ）、「バーネイズを批判した社会学者であり言語学者のノーム・チョムスキーは、バーネイズが生み出したのは「合意の捏造」のためのテクニックだと激しく批判してゐる。」

言語の分化機能の発揮を主張した安部公房の読者であれば、チョムスキーが厳しいプロパガンダ批判者であることは当然と思はれるでありませう。また注意すべきは、チョムスキーの「激しく批判してゐる」「合意の捏造」が、唯一絶対神を抜きにしてつくつて来た欧米白人種キリスト教の世界での、Godと人間の間の契

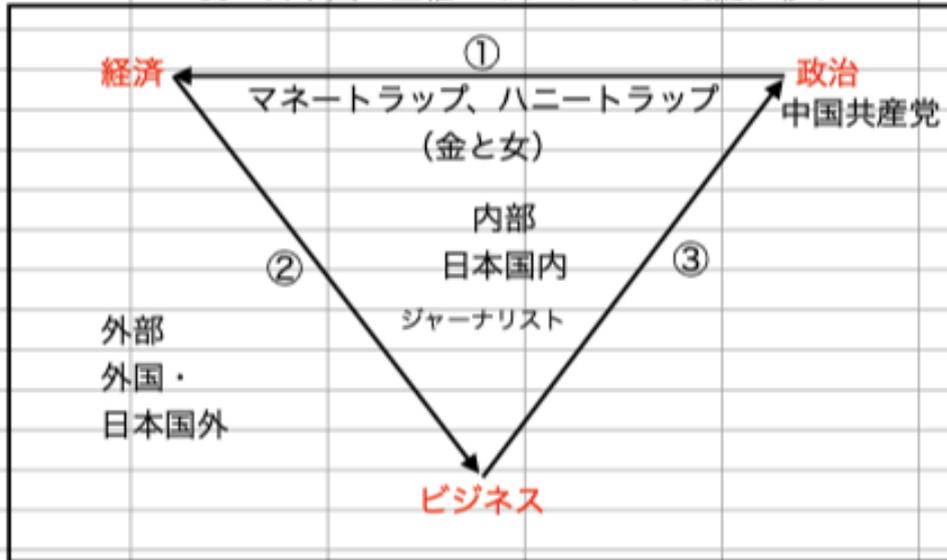
約ではなく、人間だけでつくる社会の契約の捏造だといふことである。ここに欧米白人種に特有の事情に根ざす根深い、プロパガンダと国家による民主主義政治経営と大衆の間に複雑な問題があるといふことです。「近代国家構造模型図」の二層と三層の間の、これは問題だといふことになります。この図は後掲します。

ここまでおさらひをして、ここであなたに示すのは、一体このプロパガンダなるものが実際にはどのやうに私たちの現実を動かしてゐるのかといふ其の仕組みです。それを近時私の知つた知見を一般化してモデルとしましたのでご覧下さい。これは政治と経済とメディアのプロパガンダの捏造情報、要するにデマの伝搬の経路の概略を描いたものです。「プロパガンダの構造」図のダウンロードは：

<https://docdro.id/3OARA3m>



統治を [国家→イデオロギー] への支配に移行させる順序
 例：日本国の主権→イデオロギー支配に移す



例：日本国

1. この矢印の①②③の順序で日本国内に、
 作業員を使って、影響力を行使する。
2. これによつて、日本の国家主権をイデオロ
 ロギーに屈服させて、三角形の三点によつて
 構成される面積を絶対的に、恐怖によつて支
 配することを目論んでゐるのが、共産主義・
 グローバリズムである。
3. 統治を [国家→イデオロギー] への支配
 に移行させる格好の仮想現実上の手段として
 大手IT企業のプラットフォームが悪用されて
 ゐる。
3. いふまでもないが、この三角形の
 内部の面積は、文化と呼ばれる。これもいふ
 までもなく、この面積が先にあつて、三点が
 ある。その逆ではない。

プ（金）に、メディアによる情報操作を含めた情報トラップ（インフォ・トラップ）を、ここで加へることにします。

それから、私の経験に徴して今の世の中を眺めても、これらに加へて、更に心理トラップ（サイコ・トラップ）を追記すべきです。従ひ、超限戦に関する日常の罠についてまとめると次の通り：

A. 人人接触トラップ：

- (1) ハニー・トラップ（女）
- (2) マネー・トラップ（金）

B. メディア・トラップ：

- (1) 情報トラップ（インフォ・トラップ）：捏造報道、デマ、でっち上げ、嘘の流布
- (2) 心理トラップ（サイコ・トラップ）：この罠（トラップ）は上記（1）と裏表の関係にある。実態は同じ。照明の当て方が違ふだけ。

そして再掲すれば、あなたが自分の頭でものを考えるための「ネット・メディア論のための用語定義集(v2)」のダウンロードは：<https://www.docdroid.net/lfKSfuZ/v2-pdf>

私の知見では、メディア・トラップ（メデイトラなどと略称するものであらうか）の罠を避ける方法は次の通りです。

- (1) 根拠ある数字を以て示すことのできない情報は一切信用しない。解釈に悩むだけ時間の無駄です。即座に捨てることです。
- (2) 数字で示される情報は、抽象的な場合を除き、常に過去の情報ですから、現在と未来に関する情報に数字のないことが往々にしてありますので、この場合は、情報の持つ論理性に着目して真偽を確かめる必要があります。この場合、情報の構成要素は次の通りです：

- (a) 文字
- (b) 数字
- (c) 記号
- (d) 画像（静止画・動画）
- (e) 音声

これらに接して良く見、また良く解析するには訓練を必要とします。その訓練の一番有効なるものはやはり国語による訓練ですから、結局問題は上掲の定義の話に戻ります。

メディアの情報は、今やデジタルの情報となつて、紙の印刷工場といふような企業の資本の投下は不要となつて、個人が極めて容易に大量の情報の複製をモバイルで製作できるやうになつた。これを嗜好化して悪用してゐるのが今呼ばれるGAFAといふ国際IT大企業です。これを国家の側が国家主権といふ国家の権利を執行して対抗し凌駕して管理（マネジメントとコントロールの二義あり）するとすれば、私の考へは、ネットワークをブロック化して管理し統制するといふ考へです。これは、デカルトの思考規則4つのうちの第二規則の応用です〔註〕。

〔註〕

デカルトの思考規則の第二規則は次の通り：

「私が吟味する問題のおおのを、できるかぎり多くの、しかもその問題を最もよく解くために必要なだけの、小部分に分かつこと。」（世界の名著『デカルト』中「方法序説」177ページ上段）

さて、このメディア・プロパガンダの構造と併せて依然として私たちが考察すべきは上掲の「近代国家模型構造図」です。この国家構造の上で下で内で外でプロパガンダがなされてゐて、上述の弱点を攻撃してゐるからです。

さうして、このプロパガンダは、物理層と論理層の二階層に亘つて出入りしてゐることを、JTとしては、忘れてはなりません。「二階層戦争論を考へるための分類」のダウンロードは：<https://docdro.id/aKC43tg>

20190612										
eliya lwata										
二階層戦争論を考へるための分類										
論理層	ネット地勢学	国境なし	地勢動態論	中央絶対集権型放射状 topology	並行四辺形に標掛けの topology	第三項の階層	超越論	汎神論的存在論	通信技術戦争 1	
物理層	地政学	国境あり	地政静態論	一神教の topology	大地母神崇拜の topology	二項対立の階層			通信技術戦争 2	
				中華人民共和国	日本帝国					
論理層	論理戦争	プロパガンダ戦争 1	文明間戦争 1	宗教戦争 1	イデオロギー戦争 1	検閲 1	ネット・ヘゲモニー	検閲 1	ネット・メディア	
物理層	物理戦争	プロパガンダ戦争 2	文明間戦争 2	宗教戦争 2	イデオロギー戦争 2	検閲 2	ヘゲモニー	検閲 2	マス・メディア	
論理層	ネット・ヘゲモニスト	GAFA	プラットフォーマー 1	ネット・ヘゲモニー論 (ネット覇権論)	ネット・モナド論 (**)	モナド・メディア論 1 (**)	ネット政治・ネット経済批評	第二次冷戦 (Cold War) 1	第二次 COCOM 1	第三次世界大戦 1
物理層	ヘゲモニスト	近代国家	プラットフォーマー 2	ヘゲモニー論 (覇権論)	社会モナド論 (*)	モナド・メディア論 2 (**)	政治・経済批評	第二次冷戦 (Cold War) 2	第二次 COCOM 2	第三次世界大戦 2
論理層	目に見えない戦争 (透明な戦争)	存在の戦争	形而上の戦争	(*) モナドの定義：モナドとは社会を構成する全ての価値の単位である。モナドは大小に、全体と部分に、1か多数かに拘らず全て等価で存在する。			(*) 社会の定義：社会とは民主主義 (政治体制) と資本主義 (経済体制) からなる世の中のことである。		(**) ネット・モナド論とモナド・メディア論は、今私の構想してゐるネット・メディア論の中心をなすメディア論の一部です。	
物理層	目に見える戦争	現存在の戦争	形而下の戦争							

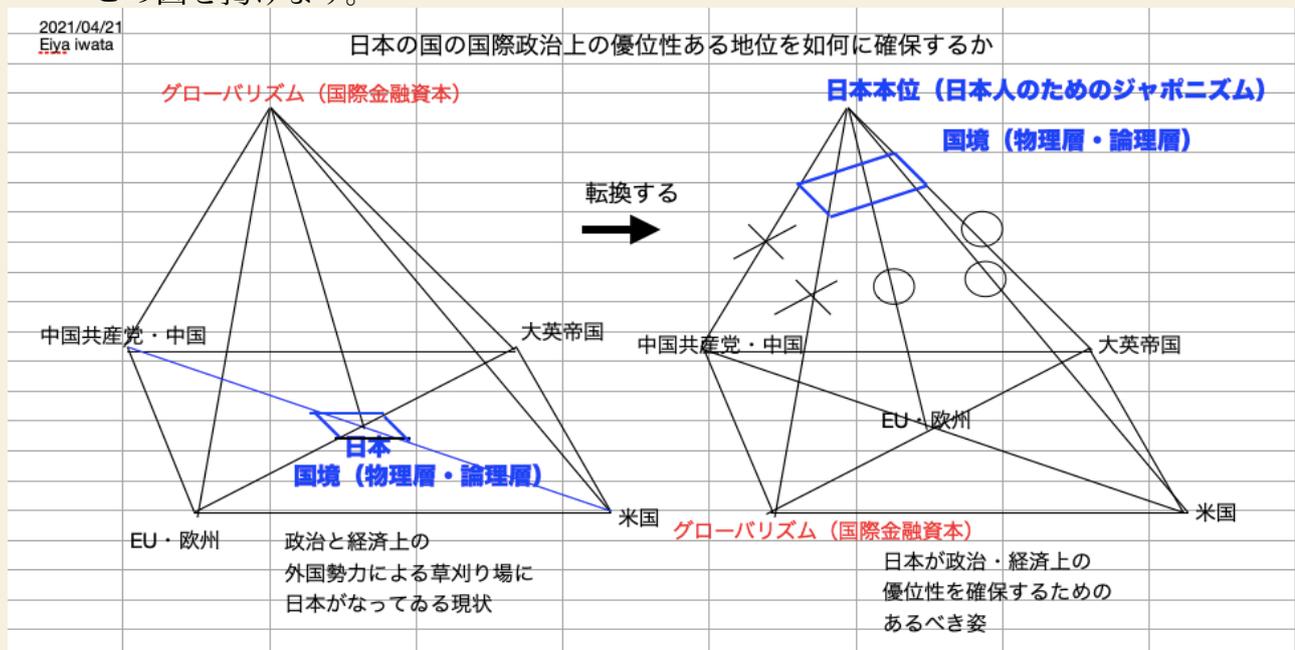
あとは、これらの図解を材料にして、自由にお考へ下さい。しかし、それにして
も幾つもの分類を手元に置いて情報の分析をしなければならないといふことは、
大変に複雑な世の中だといふことです。

そして、次の課題は、これも果たして一個人の考へるべき本来のことかといふ問
題はありますが、それでも尚考へるべきことは次のことです。

2。日本の国の国際政治上の優位性ある地位を如何に確保するか

「日本の国の国際政治上の優位性ある地位を如何に確保するか」のダウンロード
は：<https://docdro.id/NkeWXei>

この図を掲げます。



ものの見方をこのやうに転換するのです。

何故一庶民である一個人がこのやうな図解をしなければならないか？といふ問に
対する答へは前章にある答へと同じです。今の日本の国家は全く庶民の視点で見
ると信頼するに足りないので、自分の命と安全は自分で守らうといふことです。
加へて、無意識にあなたのみる立場が否応なく personal journalist ("PJ")であり
ますから、この意義にあつても国家のことを心配しなければいけない。能天気で
生きてみられる時代では、今はないといふことです。能天気はNO天気と書くの
か脳天気と書くものか。

要するに、与へられたものだけでものを考へることはもはややめなければなら
ず、環境に反発してこれを否定すべきものは否定し肯定すべきものは肯定するた
めに自分の意志を発動して明確に物事を見よう、そのためには言葉を正しく使は

うといふことです。そのための上掲の用語定義集です。

普段日常では私たちは定義された用語を使つてゐませんし、それはそれでいいわけですが、正しくものを考へようといふ論理の世界に一旦足を踏み入れますと、あなたは自分の力で自分の使ひまた周囲にある言葉の意味を考へる、即ち言葉の持つ概念を定義しなければなりません。さうでなければ、自問自答すらできず、ましてや議論をして問題の解決に至ることはできない。本来ならば、日本の公教育の中の国語教育でこれを教へるべきですが、教へない。私は仕方がないので、ドイツ文学とドイツ哲学に学びました。日本語の世界に無いといふ理由から（本当はあるのですが日本人が日本人について無知なだけである。それ故に図解中には「日本人のためのジャポニズム」と書いた次第）外国語を通じて學ぶこと、即ち日本人の血肉にする難しさについてここで話すと際限がなくなりますので、別の機会にしたい。それだけでも一冊二冊三冊の本になります。さて、この四角錐の解説です。

(1) 左側のグローバリズムを頂点とする四角錐を見てお判りの通り、日本は今底面にあつて小さな四辺形を、四辺の四隅にある4つの政治勢力の間にあつて、政治的にも経済的にも草刈り場になつてゐる。即ち、

(2) 私たちが日々額に汗して生み出すお金が、これらの国に流出してゐて、国内の社会基盤の整備に、土木産業にあるものも含め、また福祉に至る目に見えぬサービスの領域までも含めて、使はれてゐないので、私たちは貧しい生活を強ひられてゐる。

(3) この原因は、単へに、国家意志の発動が無いからです。自己検閲によつて国家意志の発動を強く抑制してゐるのは、政治家であり官僚であり、この外部にして日本国家を否定するメディアである。結局これらのグローバリズム・共産主義勢力の目的は、日本の国をこの四角錐の底辺にこのやうに小さくちぢこまつた状態にしておきたいといふことであり、それは政治の世界ですから自国の利益にかなふからです。そのためのメディアによるプロパガンダを外部から手を入れて操作してゐる。その最たるものが、もはや誰の目にも明らかなる中国共産党によるあらゆる面に於ける介入です。ですから、

(4) この底辺の四辺形にある4つの国の勢力の均衡も均衡あつての四辺形ですから、これが壊れると、この全体が壊れます。それをかろうじて維持して犠牲になつてゐるのが日本の国といふわけです。それでは、

(5) この劣悪な状態を脱して、日本の国が犠牲とならずに、彼らの此処は流儀に従ひツケを他の国に廻してトランプ・ゲームにいふババを他の国に引かせる位置はどこかといふことを示したのが、右の図です。

(6) 線分は国家同士の関係を意味します。X印をつけたところは、この国に対しては国境を閉鎖するといふ意味です。その対象国は二つ、一つはいふまでもなく中華人民共和国であり、二つ目は国家並の、といふかそれ以上に国家主権を凌

駕することに恥じないグローバリズムを標榜する国際金融資本勢力です。

(7) 日本がこの右図の頂点近くに位置して他の4つの国家勢力を下に見れば、世界情勢の見通しも眺望もよくなります。

(8) EU・欧州が底面の真ん中に、日本の代はりに入れたのは、結局EU・欧州がババを引いたといふことです。ここに中華人民共和国をおいても良いし、アメリカが入っても良いのです。そのやうな政治戦略を日本は自らの意志で持つことができる。ただし、アメリカは軍事同盟の相手ですからこの手はありません。実はEU・欧州といふ手もないでせうし、大英帝国と書いた今のイギリスもまた此の自己犠牲の精神に富んだ位置を占めることはないし、占めさせてはならないでせう。それは日本にとって不利なことだからです。やはり、島国同士の意思疎通は、大陸諸国と比べて容易ではないかと察します。

(9) 各国は、それぞれ自分の国を右図の頂点近くに置いて各国の利害を考へてみる。各国政治家や官僚やシンクタンクの頭の中には、この図形はないでせう。しかし、私たちはこれで全体を考へることができます。

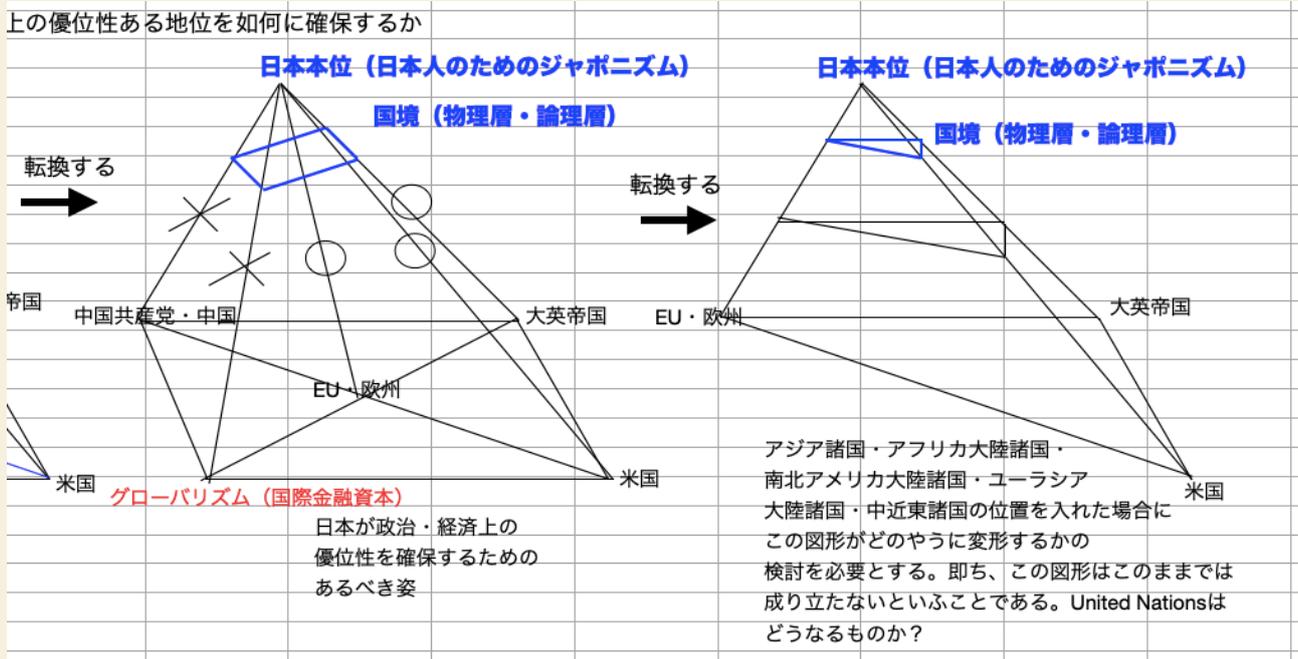
(10) この図で大事なのは、日本の国が日本本位にものを考へることです。これを日本本位と書きました。この本位といふ言葉は、明治時代に、文学の方面では夏目漱石が自己本位と使用したのが最初です。この言葉の意味は、近代の欧米の圧倒的な物質科学と応用技術の勢力に対抗するために、しかも日本の国家がこれらの国々に合はせて生きて行かうと決断したその当の国家の内部にゐる国民の一人として、一体如何に個人は生きるべきかといふ問に答へるため生まれた言葉であり人生の方針です。この事情はグローバリズムを盲信して奉ずるこれまでの政府の方針に対抗するために国民の一人は如何に生くべきかといふ今の私たちの問題の依然として解決法であるのです。この意義に於いて、

(11) 日本本位の横に(日本人のためのジャポニズム)と入れました。その心は、日本人が日本人自身のことを知らないので自分のことをよく知るやうに努めることが肝心といふ心です。さうでなければ、日本本位といふ言葉が成り立たない。このことの上に、

(12) 日本本位の直下に描いたのが、青い線の四辺形で、これがこのまま日本の国境です。

(13) この国境を立てた上で(当たり前ですが)、物理層と論理層の二階層で戦争に備へるといふことです。これは安全保障の問題です。さて、それでは、

(14) X印をつけた二つの線分、即ち日本ー中国共産党・中国(中華人民共和国)とグローバリズム(国際金融資本)の線を取り除いたらどうなるかを描いたのが次の図です。これを見て一目瞭然で、これは単純に二つの線分の引き算をした結果に過ぎません。描いてみると、これは最初はまづ、めでたくも混沌たる世界情勢といふことになりませんが、まづは御一覽。



とにかく、あなたの頭を酷使してもらひたい。上図の青い四辺形が日本の国であるならば、この枠がそのまま国家安全保障の問題となる領域だからです。あなたの生命に関する問題です。そのために「二階層戦争論を考へるための分類」がありますので、これをとくにご覧戴き、あなたの日常の言葉にまで砕いてみる努力をお願いしたい。類概念（上位概念）を種概念（下位概念）へと分割して降ろして行くのです。綱>縄>紐>糸 と云つたやうに。

といふことで、次は政治形態の話です。EはEuropa（ヨーロッパ）のE、AはAmerica（アメリカ）のAです。

7.5 政治形態EとAの公私：一神教のtopologyの政治形態

(次号に続く)

縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く

(12)

岩田英哉

目次

I 縄文紀元日本語論

1. 日本語と漢語の関係

Intermezzo：何故日本にはキリスト教徒が全人口の1%しかゐらないのか？

2. 日本語の音義と概念の関係：五十音表とは何か

3. 五十音表を記号化する

4. 日本人の言語宇宙

5. 古事記の宇宙観

5.1 高天原とは何か1

5.2 カミとは何か1

5.3 高天原とは何か2

5.4 日本語の特殊の中の普遍

5.5 海の民のお祭りと超越論の関係

5.6 天照大神とは何か

5.7 月読命とは何か

5.7.1 月とは何か

5.7.2 月読命とは何か

5.7.3 月読神社とは何か

5.7.4 ヤシロとは何か

5.7.5 「鹿座神影図」を読み解く

5.7.6 磐座と注連縄の関係

5.7.7 亀の甲羅とは何か

5.7.8 習合とは何か

5.8 カタカナとひらかなの関係

青字は既論の章、赤字は今回論ずる章、黒字はこれから論じる章

Intermezzo 2：海風之大刀（アマナギ・ノ・タチ）は一体どんな姿をしてゐるのか

5.9 日本位相習合史

5.1.0 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか

5.1.1 かごめかごめの歌は一体何を歌つてゐるのか

5.1.2 縄文土偶とは一体何か

5.1.3 習合といふ漢意をやまとこころで何といふのか

5.1.3.1 位相史のための紀元分類

5.1.3.2 淤能基呂島とは何か

5.1.5 縄文土器とは何か

5.1.6 大祓へを読み解く

5.1.6.1 何故私たちは御祓を必要とするのか

5.1.6.2 大祓へに唱へられる「聞こし召す」とは何か

5.1.6.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある

(1) 第一段：高天原八百万神大祓ひ会議

(2) 第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の分類と大祓

(3) 第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなつたか

5.1.6.4 八の音義は何を意味するか

5.1.6.5 誰が「しろし召す」誰が「聞こし召す」のか

5.1.7 紫式部の超越論『源氏物語』

5.1.8 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか

5.1.9 ダイダラボッチと巨人伝説：大倭日高見国と播磨国：房総半島と瀬戸内海の交流の歴史

5.2.0 日本人はどこから来たか

5.1 6.4 八の音義は何を意味するか (3)

5.1 6.5 誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか

5.1 7 紫式部の超越論『源氏物語』

5.1 8 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか

5.1 9 ダイダラボッチと巨人伝説：大倭日高見国と播磨国：房総半島と瀬戸内海の交流の歴史

5.2 0 日本人はどこから来たか

目次

5.1 6.4 八の音義は何を意味するか (3)

A 箱根神社の三柱の御祭神の名前

B それでは、瓊瓊杵尊は一体どこから天下つて来たのか

C 最初の瓊瓊杵尊は、何処からミコトを持ち運んで来たのか

D 何故日本の国は古事記と日本書紀といふ二種類の書物を必要としたのか

E カミとミコトとヒトの違いと同じであることについて

F 国学とLiberal Artsの統一と普遍学 [universal science] としての日本学 [Japanology] の成立

G 日本書紀にある「神武天皇より数へて」「今に一百七十九万二千四百七十余歳」とある皇統の長さ (90万年) は何を意味するか

H 大祓に書かれてゐる大祓の祭祀の式次第ほどのやうな式次第であるか

I 何故天照大御神の孫が天孫降臨しなければならないのか再度

J 日本語の音義とひらかな・カタカナ・漢字の関係

K 国学言語論と欧米言語学の関係

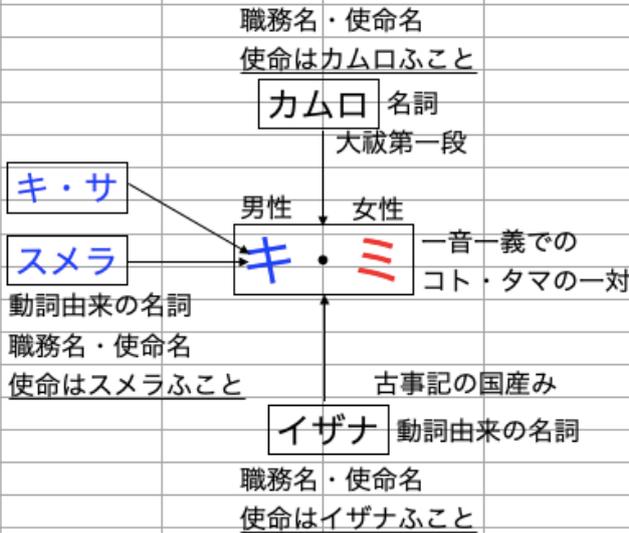
L 折口学と柳田学および日本語ドラヴィダ語起源論 (大野晋仮説) の関係

5.1 6.4 八の音義は何を意味するか (4)

「F 国学とLiberal Artsの統一と普遍学 [universal science] としての日本学 [Japanology] の成立」にて、私は「国産みの二人は最初のイザナギ・イザナミのカミ、後の二人はまた何代目かのイザナギ・イザナギのカミである。」と述べましたが、しかし時系列でものを考えると、さうではなく、よく考へて見れば、これは順序が逆です。訂正します。勿論超越論の世界には時間は存在しませんか、どちらが先でも問題はないのですが、しかし、大祓は座標Aから座標A'への移行を背景に隠し持つてゐるわけですから、当然に大祓の二柱のカムロギ・カムロギのミコトの方が先で、古事記の国産みの話が後になります。そこで、これら二つを一緒に併せて一体、私たちヒトが天津神より「諸々の命 (ミコト) を以て (モチて)」ミコト持ちになつて国津の世界に天降ることによつて、そのまま国津の世界でのカミになることの次第を、言葉の意味の視点から解説し図解をしましたので、これに触れてから「G 日本書紀にある「神武天皇より数へて」「今に一百七十九万二千四百七十余歳」とある皇統の長さ (90万年) は何を意味するか」に入りたい。最初に「ミコト持ちとは何か」をご覧下さい。ダウンロードは：<https://docdro.id/mGhWMWn>

2021/04/03
Eiya iwata

ミコト持ちとは何か



理解のために動詞の形はここでは皆「一ふ」といふ語尾としてみる

ギとミはミコト（御言・御言）持ちである
＝古事記の国産みの箇所を読むと、ミコト持ちは天津神による御言・御事を授けられた使命を遂行する職務名・使命名がミコトである。そしてまたこの箇所で見るとは、ミコト持ちはミコトを天津神より受け取り、持つことによつて（以ちて）二柱の神と呼ばれてゐるやうにカミになるといふ事である。

問：あなたはどのやうにカミになるのか？

答：もしあなたが天津神よりミコトを持ちて、男性ならギであり、女性ならミである者として、国津の世界に天降る場合に、その使命に応じて、イザナギ・イザナミのミコト持ちとして、また先々の国津の世の繁栄のためにニギニギしく露払ひをせよといふ使命をおほせつつあったならば、ニニギノミコト（瓊瓊杵尊）と呼ばれるミコト持ちとして国津の世界ではカミになる。

このやうな瓊瓊杵尊のミコト持ちの使命を思へば、私の子供のころよくみたチンドン屋さんがそれであり、また江戸時代の大名行列の露払ひも、ひよつとしたらそれかも知れない。奴（やつこ）さんと呼ばれる仕事・職務は、形を変へた瓊瓊杵尊かも知れません。今の世にも瓊瓊杵尊の使命の持つ精神は生きてゐる筈で、かく思へばやはり典型的にはお祭りの時の鉦や笛や太鼓の音がミコト持ちの露払ひの、先触れの賑やかな音といふことになります。神輿の中にあるミコト持ちが天津神からの使命（ミコト）を戴いて国津の世界をカミとなつて練り歩くこと、そして私たち一人一人が実は「いつの間にか」（超越論）「知らず知らずのうちに」（超越論）ミコト持ちになつてゐること、これが私たち日本人の全てのお祭りのコトの次第だといふことになる。お祭りもまたミコト持ちのコトである。これで何故私たちの世の中が（社会・societyを含む）が役割分担社会であるかの縄文思想に基づく理由が明らかとなる。己の職分をよく務め、己の職責を果たし、また己の分を守るといふコトが、そのまま私たちの道徳と倫理の基礎を成してゐる。ミコト持ちの思想が、私たちの日常生活の基本に今でも正しくあるといふことです。

この図解から解ることを以下に箇条書きに列挙して知識をまとめたい。私がここまで目を通した資料・文献は、この論考の海の民と地（つち）の民の基本的な語彙分類表を以て示した冒頭に明示した通り、古事記の冒頭のいはば天地初発以下その後は大天国産みの辺りまで及び大祓の、主にこの二つです。それ以外の古事記や日本書紀からの引用や祝詞からの引用は、この二つから得た知見を捕捉的に説明するために引用を重ねてみると理解をして下さると、私の論理の展開の骨組みが明らかです。それ位に、この二つのほんの少しの文字の量でありながら、その文字自体も含め行間にある情報の質と量は実に豊かです。

(1) キとミといふそれぞれ男性女性を意味する一音一義は、天津の世界での最高位の格にある男性女性を意味する名詞であると思はれる。といふのは、この二語に係る形容語が、スメラであり、カムロであり、イザナであるからです。これに対して、それでは国津のそれぞれの国にある最高位の格の男女の一音一義の名詞は何かといへば、それが女性にはヒメのメ（女）、男性にはヒコのコ（子）ではないかと思はれる。このメとコにそれぞれ共通するヒの音義が形容されて係りヒメとヒコになり、漢字輸入以来、姫・比賣、彦・比古などと表記されるやうになつた。

(2) キとミはミコト（御言・御言）持ちである＝古事記の国産みの箇所を読むと、ミコト持ちとは天津神による御言・御事を授けられた使命を遂行する職務名・使命名がミコトである。そしてまたこの箇所から判ることは、ミコト持ちはミコトを天津神より受け取り、持つことによつて（以ちて）二柱の神と呼ばれてゐるやうにカミになるといふ事である。

(3) あなたはどのやうにカミになるのか？と問はれれば、答は次のやうになるでせう：

もしあなたが天津神よりミコトを持ち、男性ならキであり、女性ならミである者として、国津の世界に天降る場合に、その使命に応じて、イザナギ・イザナミのミコト持ちとして、また先々の国津の世の繁栄のためにニギニギしく露払ひをせよといふ使命をおほせつかつたならば、ニギノミコト（瓊瓊杵尊）と呼ばれるミコト持ちとして国津の世界ではカミになる。

(4) この(3)のやうな瓊瓊杵尊のミコト持ちの使命を思へば、私の子供のころよくみたチンドン屋さんがそれであり、また江戸時代の大名行列の露払ひも、ひよつとしたらそれかも知れない。今の世にも瓊瓊杵尊の使命の持つ精神は生きてゐる筈で、かく思へばやはり典型的にはお祭りの時の鉦や笛や太鼓の音がミコト持ちの露払ひの、先触れの賑やかな音といふことになります。神輿の中にあるミコト持ちが天津神からの使命（ミコト）を戴いて国津の世界をカミとなつて練り歩くこと、そして私たち一人一人が実は「いつの間にか」（超越論）「知らず知らずのうちに」（超越論）ミコト持ちになつてゐること、これが私たち日本人の全てのお祭りのコトの次第だといふことになる。お祭りもまたミコト持ちのコトである。これで何故私たちの世の中が（資本主義と民主主義社会・societyを含む）が役割分担社会であるかの縄文思想に基づく理由が明らかとなる。己の職分をよく務め、己の職責を果たし、また己の分を守るといふコトが、そのまま私たちの道徳と倫理の基礎を成してゐる。ミコト持ちの思想が、私たちの日常生活の基本に今でも正しくあるといふことです。

(5) 立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は藤の花、といふ美人の形容がありますが、この女性の美しい立居振る舞ひや所作に関する私たちの美意識をそのままこれまで論じて来た御祓とミコト持ちに応用していへば、立てば御祓、座れば御祓、歩く姿は大祓。または、立てばミコト、座ればミコト、歩く姿はミコト持ち。といふこと、これが私たちであるといふことです。

(6) ちなみに、音義《キ》は、男性名詞でありながら同時に中性名詞でもある、さういふ意味では男性名詞よりも格の高い音義であり、統合的に女性名詞も含んでゐる。

る。国学Iの日本語言語学『日本語原学』（林甕臣著）による音義の解釈は、今の欧米言語学用語でいへば、語幹・語根および格変化（名詞）と活用（動詞）に相当する日本語に則した固有の解説が書いてありますし、ここで引用しようと思ひましたが、やはり別に一章を立てるかそもそもこの論考とは別に論を立てることが良いと判断しましたので、後述する大祓の解釈の場合を除いて、そのやうにしたいと思ひます。論の本筋を追ふことに傾注します。

さて、以上のことを踏まえた上で、このキとミといふ男性と女性の名前によつて実在する対応物は一体何か？といふ問に答へます。これは今も日本の国の海岸にミナ・ト（門）としてある夫婦岩がその典型であると私は考へる。メ・ヲト即ち夫婦であり女夫であります。これを太古にの縄文紀元に戻せば、縄文語と呼ぶことのできる日本語で、キ・ミと呼んだ。ミナ・ト（門）は、キとミの二柱からなつてゐた。向かつて右左いづれがキでありいづれがミであるか。左優位右劣位なれば、何を主体にして左右を呼ぶかによつて左右が異なりますが、もし海を背にして海を主体に海の側から二柱を眺めれば、向かつて左が優位、右が劣位。もし海辺の砂浜に立つて二柱を眺めれば、向かつて左が優位優位、右が劣位と表裏で柱の位置の値がひっくり返ることになります。しかし、これによつて等価交換が成立しますので、これで良いのかも知れません。何故なら、いづれにせよ、このキとミの二柱は、陸と海の境界域に立つてゐるからです。

スメラ・ミコトといふ言葉に戻ると、スメラ・ギといふ呼称はあつても、スメラ・ミといふ呼称はありませんから、といふことは、後者のことを、キ・サ・キと呼び替へてゐるのではないでせうか。即ち、皇后もまたギである。または、キであると。

ミ・ギとヒダリ（←ヒダる）といふ左右のことを漢心で考へますと、やはり御・ギですから、男は右に、女は引き算をして自動的に左に位置するといふことになりますから、上記海からみやうが陸からみやうが、右（ミ・ギ）の柱が夫婦の夫（をのト（門））であり、左の柱が夫婦のメ（メのト（門））といふことになります。さうすると、国産みで、イザナ・ギとイザナ・ミのミコトまたはミコト持ちが、最初に右巻きに時計方向に廻ることは、しかも女性の神から男神に声を掛けてイザナひして劣位方向に廻るのですから、方向自体が国産みのための劣位となつて国産みが失敗をすることになり、反対に次の男神から声を掛けてイザナひ且つ左巻きに即ち女性の優位である方向に廻ると、陰陽の均衡（バランス）が取れて調和の中から国が生まれてくるといふ原理的な論理のあることが判ります。ここでも、夫婦岩のあり方と同じ左優位右劣位の原理が働いてゐる。

とすると、スメラ・ミコトとキ・サ・キの関係はどうなるか。[キ・サ]・キの[キ・サ]とは、キの先のキ、即ちキの先にあるキといふ意味ではないのでせうか。一音一義。つまり、左優位のキのことを男のキまたはギの先のキと呼んだのではないでせうか。即ち、今にいふ漢心の天皇皇后といふ両陛下は、もともとキなのであり、同性、

否むしろニュートラルな存在であつて、このやまとことばの意味そのものが、そのままお二人が高天原の存在であることを現代にあつて意味してゐるといふことです。これ即ち、天皇皇后両陛下は、高天原の第一層のカミであること。これにより、何故瓊瓊杵尊の母親が天照大御神よりも上の神格にゐなければならないか、一度格上の第一層のカミとなつてから子供、即ち天照大御神の孫を産まねばならないかといふ皇統系譜上の原理が明らかになるのです。少なくとも（少なくともです）1万6500年前からの伝統を恣意的に改変することは、これにより、赦されないことだといふことが判るでせう。即ち、イザナギ・イザナミのミコトも瓊瓊杵尊も、今も私たちの日常に左優位・右劣位といふ高天原の規則に従つて、生きてゐるといふことです。

キサのサは、サツキ（皐月）のサ、サッサとしなさいのサ、サッササッサのサ、サ・みだれ（五月雨）のサ、サ・ヲトメ（早乙女）のサ、あるひは高天原の言語規則により、海彦・山彦や箱根の神山のカミの名である彦火（ひこほ）火出見尊（みこと）の彦火、または宇摩志阿斯訶備比古遲神（ウマシアシカビヒコヂのカミ）の比古遲（ひこぢ）と同様に、高天原の第一層にあつてのキサは、国津の世界に降りて来るとサキ（先）と呼ばれることになるので、一音一義。、これはこれで、そのまま先（サキ）のキといふ意味になり、結論はやはり、左優位・女性優位、右劣位・男性劣位といふ結論になることは変わりません。日本の国では男が劣位、女が優位といふことに1万6500年の歴史が少なくとも（もつと遡れば海の民の歴史の太古に遡るでせう）あるわけですので、これが何故女性が天皇即ちスメラ・ミコトになつてはいけぬか、実は左優位のキサキであるのだからだ。といふ言語論上のまた太古からの私たちの縄文思想であり縄文思想以前からの論理なのです。ですから、私たち庶民が伝統的に表向きとは全く異なり、夫は妻を山の神などと呼んで恐れてゐるやうに、皇室もまた、恐れ多いが庶民の言葉でいへば要するに、かかあ天下なのではあるまいか。そこで、である：

あんたたちキリスト教の歴史とは時間の長さも伝統も異質である。余計な御世話である。我が国を見倣つて、はつきりと、お前たちも男は女に劣ると明確にしなさい、聖書の創世記を否定することになるが、それがお前たちの願ひなのだらう。その勇気のなさの理由を日本人に向けずに、正面からむきあつて、ローマ法王庁に向いてキリスト教の教義に革命を起こしなさい。求める相手が間違つてゐる。位のことを有識者には言ってもらひたいものである。もし本当に知識なるものを有してゐるならば。

さて、ここまで来ると、神武天皇以前に既に皇統はスメラ・ミコトとして存在してゐるといふ歴史的事実を私たちは認めて、明治政府の打ち立てた、キリスト教といふ唯一絶対神を戴く宗教に見かけ上似せてみせたこの、天照大御神を絶対神のやうに仕立てて皇統・スメラミコトの由緒と見せかけた、俗にいふ此の国家神道は今や打ち捨てるべき時がきたといふことです。私は併せて、スメラ・ミコトの京都御所への遷都をここでも論理矛盾なく、申し上げたい。公武合体政策の、これが破綻したといふことの、日本語からの言語論上の意味であり、証明です。日本語の論理で皇統を巡る破綻が明らかであれば、これを正すべきでありませう。最高の解決策は、今上陛下が京都に戻るとさう一言

御自分の御意志を発露なさればそれで万事解決だと私は思いますが、あなたに於かれては如何。わたしはスメラ・ミコトだと御発声戴ければ、明治維新以来の、従ひ先の戦争の後の現行翻訳憲法と是に起因する諸問題も含み、これも現下の問題解決の根本的な解決になりませう。

G 日本書紀にある「神武天皇より数へて」「今に一百七十九万二千四百七十余歳」とある皇統の長さ（90万年）は何を意味するか

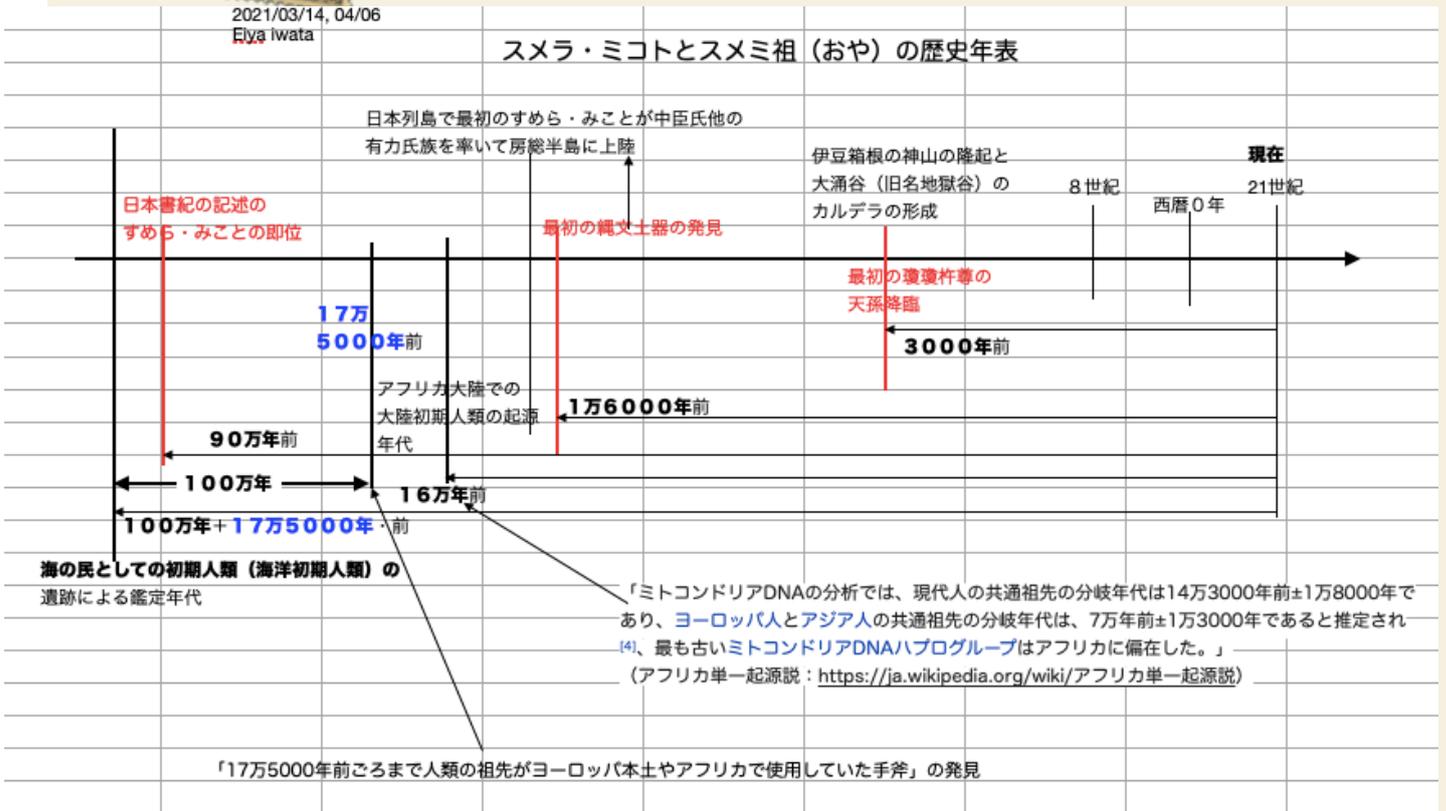
日本書紀には、歴史的な事実が記録されてゐるのでした。とすると、日本書紀の巻第三の「神日本磐余彦天皇 神武天皇」（かむやまと・いはれびこ・の・すめらみこと）にある、今の言葉でいふなら天皇陛下のご先祖さまが遙か彼方、神武天皇より数へて「天祖（あまつみおや）の降跡（あまくだ）りましてより以遠（このかた）、今に一百七十九万二千四百七十余歳（ももよろづとせあまり・ななそよろづとせあまり・このよろづとせあまり・ふたちとせあまり・よほとせあまり・ななそとせあまり）。」とある、この1、792、470歳とある年数は、これも既述の通りで海亀産卵暦に依るものですから、この数字を半分にして今の一年の単位に海亀年の単位を合はせると、896,235余年となりますが、このほぼ90万年と切り上げて知るスメラ・ミコトの歴代年数の総計は、これは事実です。何故ならこれは歴史書であり、時系列に時間の順序に足し算した叙述の世界だからです。さて、まづ神武天皇より数へて「天祖（あまつみおや）の降跡（あまくだ）りましてより以遠（このかた）」に云ふ「天祖（あまつみおや）」とは誰で、天祖（あまつみおや）の降跡（あまくだ）り」とはいつかといふ問に答へねばなりません。

問：「神武天皇より数へて「天祖（あまつみおや）の降跡（あまくだ）りましてより以遠（このかた）」に云ふ「天祖（あまつみおや）」とは誰で、天祖（あまつみおや）の降跡（あまくだ）り」とはいつか？

答：この天下つた天祖（あまつみおや）は、通称大和朝廷の成立を高千穂の峰に二人目の瓊瓊杵尊が天下つたとする歴史の計算、即ち足し算ではとてもとても足りません。従ひ、これは超越論の世界の計算となり、大倭日高見国の成立に遡つて考へることになりますし、これは此の『縄文紀元論』の論旨からいつて合理的な理由のあることです。まづ最初に、これまでに論じて来て得た既知の情報を元に関係する事項の年表を「スメラ・ミコトとスメミ祖（おや）の歴史年表」と題して作成しましたので、ご覧下さい。ダウンロードは：<https://docdro.id/aHOE6HR>

2021/03/14, 04/06
Elysa Iwata

スメラ・ミコトとスメミ祖 (おや) の歴史年表



この年表のいふところをお話する前に、初代神武天皇に関する叙述について、日本書紀卷第三の「神日本磐余彦 天皇 (かむやまといはれびこ・の) 神武天皇 (じんむてんのう)」と題した章の初めに、この通称私たちのいふ神武天皇とは一体誰かといふことが明らかに書かれてあります。即ち、この章の論題と設問に応じた答が書かれていて、私たちに明らかになつてゐるといふ意味です。次のやうに神武天皇の章が始まります：

「神日本磐余彦 天皇、諱 (ただのみな) は彦火火出見。」

この「彦火火出」とは既に箱根神社の御祭神の一人であり、神山といふ凸の形象の3000年前の活火山に名付けられたカミの名前であることを私たちは知つてあります。ここに書いてある文字を虚心坦懐に、何の先入見も持たずに、素直に理解をすれば、大倭日高見国の初代スメラ・ミコトは、神武天皇であるといふことになります。さうして、この「神日本磐余彦 天皇 (かむやまといはれびこ・の) 天皇 (スメラ・ミコト)」の意味を解釈するに、スメラ・ミコトは一般名称としてある使命としてある職務・機能・functionに賦与された名前でありますから、その前に形容されてある「神日本磐余彦 (かむやまといはれびこ)」が本来の名前、即ち本名としての固有名詞だといふことになります。

大倭日高見国の初代スメラ・ミコトは、神武天皇であつた。そして、その本名は、大倭に於いて「神日本 (かむやまと)」であり、日高見国をシロしめす、即ち統 (す) べる磐余彦 (いはれびこ) であり、磐余彦とあつて彦磐余 (ひこ・いはれ) ではない以上、このスメラ・ミコトは国津の世界のヒトとなられてゐること、しかしミコト・持

ちとしてのカミであることを示してある。他方、「神日本磐余彦 天皇、諱（ただのみな）は彦火火出見。」とある通りに、「諱（ただのみな）」とは註釈に「三 諱は、実名のことである。」とあり（岩波文庫版『日本書紀』巻第三の註釈、199ページ）、さうであれば、この諱「彦火火出見」は、既に見てきた通りの、箱根の神山に名付けられたカミの名前であり、箱根神社では「彦火火出見」尊と呼ばれてゐるので、天降つて国津の世界に降りたつたカミの名である。といふことになります。

彦火火出見尊を祀る神社には日本各地に以下の神社があります〔註1〕。これらはみな、大祓によれば、一義的には、瓊瓊杵尊の天孫降臨に関係してゐる神社であるといふこと、即ち大倭日高見国に関係する神社であらうと推測ができます。ここでは詳細に立ち入らず、名前の列挙に留めます。これを極めることは後日の課題とします。

〔註1〕

『日本の神さまと神社』の「彦火火出見尊のご利益と神社」より (<https://日本の神社.asia/shinto10/shrine67.html>) :

箱根神社

神奈川県足柄下郡箱根町元箱根80-1

南宮大社

岐阜県不破郡垂井町宮代1734-1

知立神社

愛知県知立市西町神田12

大虫神社

福井県越前市大虫町21-27-1

若狭彦神社・上社

福井県小浜市遠敷65-41

海神社

長崎県対馬市峰町木坂247

鹿児島神社・白羽神社

鹿児島県鹿児島市草牟田2-58-3

高千穂神社

宮崎県西臼杵郡 高千穂町大字三田井1037

益救(やくじん)神社

鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦277

和布刈神社

福岡県北九州市門司区門司3492

以上の他にくわへて：

霧島神宮

鹿児島県 霧島市 霧島田口2608-5

鹿児島神宮

鹿児島県霧島市隼人町内2496番地1

また、日本書紀に上記引用の諱についての引用のあと一行を飛ばしてその次に、母親の名前が書いてあり、「母（いろは）をば玉依姫（たまよりひめ）」と曰（まう）す。海童（わたつみ）の少女（おとむすめ）なり。」とありますので（同書198ページ）、母親が海の民の出であることが判ります。従ひ、日本書紀によれば、神武天皇は海の民のご出身であることが判る。更に数行を飛んで、次の文章が続きます。私はこれは事実であると考へる。以下の引用は校註者によれば、

「神武天皇東征説話（→補注3-4）の書き出しで、東征の宣言。ここでは、出発の前から大和をめざしているが、記〔引用者：古事記のこと〕では、兄五瀬命と協議の結果、天下の政をするに適当な地を求めて東方に向うこととしてある。大伴家持の族歌（万葉四四六五）は東征を国覓（くにまぎ）〔註2〕にみたてている。」

さて、この註釈に対するに原文の引用です。

神武天皇が「年四十五歳（よそあまりいつつ）に及（いた）りて、諸々の兄（いろね）及び子等（みこたち）に謂（かた）りて曰（のたま）はく、「昔我が天神（あまつかみ）、高皇産霊尊（たかみむすひのみこと）・大日靈尊（おほひるめのみこと）、此の豊葦原瑞穂国（とよあしはらのみつほのくに）を挙げて、我が天祖彦（あまつおや）彦火瓊瓊杵尊（ひこほ・ににぎのみこと）に授けたまへり。是（ここ）に、火瓊瓊尊（ほのににぎのみこと）、天閼（あまのいはくら）を關（ひら）き雲路（くもぢ）を披（おしわ）け、仙蹕（みさきはらひ）驅（お）ひて戻止（いた）ります。」

これは初代神武天皇が自分の子供たちに、45歳になつた時に、といふことは此は海亀産卵歴でありませうから、二分すると22歳か23歳といふことになりますが、しかし私の理解は、それまでスメラ・ミコトといふミコト持ちの名前であつた今でいふ天皇が初代を神武天皇とこのやうに漢意（からごころ）で呼んだ時から海亀産卵歴を止めて四季にならつた一年を一年の単位としたのではないのかといふ理解です。これは非常に国家にとつての根本的な大きな変革であつた筈です。太陰曆を止めて太陽曆を採用した明治維新が今に至るまでさうであつたやうに。そして、「諸々の兄（いろね）及び子等（みこたち）」に語つたことが、神武天皇のご先祖さまについての昔語りであつた。これは高天原とは書いてゐないが、天神（あまつかみ）とあるので、高天原の話であり、古事記と平仄を合はせて、高皇産霊尊（たかみむすひのみこと）・大日靈尊（おほひるめのみこと）の名前が出てくる。大日靈尊（おほひるめのみこと）は天照大神の異名ですから、ここに書かれてゐることは、古事記を主体に解釈をすれば、高天原の第一層の神である高皇産霊神ではなく高皇産霊尊（たかみむすひのみこと）ですので、これはカミではなくミコト持ちである。とすれば、高天原の文字の隠されてゐる理由も明らかであり、ここは国津の世界であり、またそれ故に、高皇産霊神（たかみむすひのかみ）が高皇産霊尊（たかみむすひのみこと）として同じ理由によりミコト持ちとして、このミコト持ちの使命であり職分の名前のままに、高天原の第一層と第二層を接続する天之御柱（あめのみはしら）として（何故なら、高皇産霊神は高木の神であるから）ここにゐるといふことになります。高木とは高見と同じで、大倭日高見国にあつて山頂に登り国見をし高見をするための高天原に上位接続してゐる樹木のことでありませう。さうしてみると、高見をするには樹木を必要とするといふことの次第が解ります。そしてこれまでの考察によれば、それは二柱の樹木がなければならず、確かに天香久山の山頂には社殿に千木高知るべき千木はなけれども社殿の背後には二柱の樹木（杉でありませう）が立つてゐるのでした。この神社の御祭神はいふまでもなく天照大御神です。天照大御神もまたミコト持ちとして国津の世界では、大日靈尊（おほひるめのみこと）と呼ばれてゐる。

[註2]

とりあへず大雑把に今の日本語の理解の程度のままにこの言葉の意味を謂はば仮留めで押さへて置きます：

「くに-まぎ【国×覓ぎ】の解説

住むのに適したよい土地を探し求めること。

「山川を岩根さくみて踏み通り一しつづ」〈万・四四六五〉」

(GOO辞書：<https://dictionary.goo.ne.jp/word/国覓ぎ/>)

神武天皇は、「昔我が天神（あまつかみ）、高皇産霊尊（たかみむすひのみこと）・大日靈尊（おほひるめのみこと）、此の豊葦原瑞穂国（とよあしはらのみつほのくに）を挙げて、我が天祖彦（あまつおや）彦火瓊瓊杵尊（ひこほ・ににぎのみこと）に授けたまへり。」と語つてゐますので、ここにいふ豊葦原瑞穂国とは大倭日高見国の治める国土をいふことは明らかです。この「豊葦原瑞穂国（とよあしはらのみつほのくに）を挙げて、我が天祖彦（あまつおや）彦火瓊瓊杵尊（ひこほ・ににぎのみこと）に授けたまへり。」の授けた行為の主語は、「我が天神（あまつかみ）、高皇産霊尊（たかみむすひのみこと）・大日靈尊（おほひるめのみこと）」である。といふことは、天神とは天津神でありますから、これは天津の世界から来たカミであり、従ひ、これまでの論旨に従へば、遙か南太平洋諸島にある島嶼ネットワーク国家の首都である天津のカミ（複数であつてもよい）及び大倭日高見国に、これもやはり一般化して広義にいへば「天降つた」高皇産霊尊（たかみむすひのみこと）・大日靈尊（おほひるめのみこと）が主語になるといふことです。更にここから判るとは、高皇産霊尊（たかみむすひのみこと）・大日靈尊（おほひるめのみこと）の尊とは、もともとカミであつたのであり、それは天津の国のヒトであつたといふ日本語・言語論上の事実です。もつといへば、この二柱のカミは天津国のスメラ・ミコトから使命を受けてミコト持ちとしてやつて来たといふことです。この使命が何であるかは、大祓詞に高天原の一語を以て、瓊瓊杵尊といふ使命の名前を戴いたミコト持ちの仕事として歌はれ奏上されてゐる。そのfull nameは、彦火火出見尊である。日本書紀に歴史的事実として、

「神日本磐余彦 天皇、諱（ただのみな）は彦火火出見。」

とあれば、大祓詞に書かれてゐる瓊瓊杵尊（「皇孫命・すめみまのみこと」と呼ばれてゐる）が箱根神社の三柱の祭神の一柱の彦火火出見尊であり、このカミが大倭日高見国を治めた「神日本磐余彦」であり、これが「天皇」と漢字で書かれてゐて、しかし本来のやまとことばでは「すめらみこと」であるならば、これはミコト持ちとして天津国の使命を帯びて最初に天降つた瓊瓊杵尊即ち初代神武天皇である。といふことになります。この初代スメラミコト・神武天皇の本名・彦火火出見は天降つてミコト（尊）として祀られてゐる箱根神社の祭神の名前に一致してゐる。と云ふことは、大祓にある瓊瓊杵尊が本当の初代のはつくにしらすスメラミコト・神武天皇である。

この遠津祖の話を日本書紀にあつて「諸々の兄（いろね）及び子等（みこたち）」に語つた神武天皇は少なくとも二代目の神武天皇である。

そして、日本書紀にあつて書かれてゐる「是（ここ）に、火瓊瓊尊（ほのくににぎのみこと）、天閔（あまのいはくら）を關（ひら）き雲路（くもち）を披（おしわ）け、仙蹕（みさきはらひ）驅（お）ひて戻止（いた）ります。」といふところは、大祓の次の箇所に対応してゐる：

「天（あめ）の磐座放ち/天の八重雲を伊頭の千別（ちわき）に千別（ちわき）て/天降（あまくだし）依（よさ）し奉りき」

大祓には「天（あめ）の磐座放ち」とあるので、この大祓の出来た時には、既に第一の習合である磐座文明・岩石文明（地の民の文明）と注連縄文明（海の民の文明）の融合は完成してゐる。天（あめ）が何か天上である必要はことさらにはなく、既に見て来た通りまた今もみる通りの地上の水平面の上にある磐座に注連縄を張り渡した場所はアメ（天）でありますから、仮に山の上（例：三輪山や駒ヶ岳）の磐座でもよく、また同じ大祓の様式を備へてゐれば山を降りての平地にある磐座と注連縄の様式でも一向に構はない。この様式はお祓の様式ですから、ズラすこと位相を変じ転ずること、座標をズラすことに目的があるわけですから、どこにあらうと同じ価値を持ち同じ効果（お祓の効果）を持つのです。ズレは常に境界域になり境界域である。そしてそこに神社・ヤ（八）シロが存在してゐる。さうすると、かうなります。日本の歴史には、歴史といふ時系列の視点で此れを眺めると、全部で三つの天降りがある。：

（１）第一の邇邇藝尊・初代神武天皇の北征：座標A→座標A'の変形（ズラし）：島嶼ネットワーク国家から東国三社の場所への天降り（上陸）：これは伊豆箱根の活火山の活発な時の天降りなので、早ければ3000年前。勿論これ以前に関東以北に国々があつた。

（２）第二の邇邇藝尊の西征：座標A'→座標A''の変形（ズラし）：大倭日高見国から九州の高千穂の凹の形象への天降り（上陸）：これは活火山の噴火の収まった後なので（6300年前に活動は終息 [註3]）、いづれにせよ高千穂の凹の形象への天降りは上記（１）の3000年前以降の時間のどこかで行はれた。

（３）第三の邇邇藝尊の東征：座標A''→座標A'''の変形（ズラし）：普通にいはれてゐる（日本書紀巻第三冒頭にある神武天皇）の天降り

[註3]

『日本の活火山』の「霧島火山地質図」の「2：霧島火山の活動史 - 歴史時代の噴火」より引用します（傍線は引用者）：

「2万5000年前から6300年前の活動

この時期の火山活動によって、丸岡山（まるおかやま）、飯盛山（いいもりやま）、甑岳（こしきだけ）、韓国岳、新燃岳、中岳、高千穂峰などの小型の成層火山や白鳥山新期の溶岩流のほか、六観音御池（ろっかんのんみいけ）などが形成された。これらは北西-南東方向に並ぶ傾向が著しく、霧島火山全体の伸張方向を決定している。

この韓国岳の噴火の後、1万5000年前から7000年前の間は、約9000年前に新燃岳で起こった瀬田尾軽石（せたおかるいし）の噴火をのぞけば、比較的静穏な状況が続いていたと推定される。そして約7000年前、霧島火山南東部で高千穂峰が活動を開始した。牛のすね火山灰は高千穂峰がその成長過程で噴出したもので、長期にわたる断続的噴火による堆積物と考えられる。鬼界カルデラから6300年前に噴出した鬼界-アカホヤ火山灰は、高千穂峰のこの活動中に降下堆積したため、牛のすね火山灰を上下に分けるようにはさまれる。

(略)

最近6300年間の活動

最近6300年間の新期霧島火山の活動の場は、本火山の南東域に集中しており、そこでは高千穂峰の形成後、御池（みいけ）や御鉢が作られた。御池は、約4200年前に発生したプリニー式噴火によって生じたマールである。この噴火は知られている霧島火山の爆発的噴火の中では、最も規模が大きい。御池の周辺では御池軽石（第4図のc）中にベースサージ堆積物が挟在している。霧島火山の中央域では、新燃岳の爆発的な噴火とともに、不動池、硫黄山、大幡山（新期）および中岳山頂部の溶岩の噴出があった。」

(https://gbank.gsj.jp/volcano/Act_Vol/kirishima/text/exp11-2.html)

以上の序段での相当な量の記述あるにも拘らず、これに加えて、この上掲の「スメラ・ミコトとスメリ祖（おや）の歴史年表」のいふところは、新規の知見も含めてあらためて箇条書きにすると次の通りです。

(1) 大倭日高見国へと最初の瓊瓊杵尊がミコト持ちとして、天の原の命を以て天下つた時期は、今から遡ってみて早くても3000年前である。しかし、

(2) 建国といふのは時系列で行はれるものでもなく、時系列で起きることではないので、何故なら既論の通りに国家は単数または複数の神とともに成立するのですから、やはり最古の縄文土器の発見された1万6500年前には大倭日高見国の少なくとも基礎は誕生してゐたと考へることができる。何故なら、私の仮説は、縄文土器は海の民と地（つち）-岩石文明人-の民の、この日本列島における第一の習合の成果であると云ふものだからです。

(3) 最初のスメラ・ミコトが有力な氏族を引き連れて南太平洋諸島を離れ、小笠原諸島に足跡を残しながら北上して房総半島・茨城沿岸・相模湾・三浦半島・駿河湾その他太平洋沿岸に至ったそもその原因は、恐らくは積極的なものではなく、消極的なものであつたとしたら、それは天災地変によるか、豊かな漁場がなくなつて、魚が獲れなくなつたのか、あるひはもし積極的な理由があつたとしたら、日本列島に一族郎党を引き連れて移住するだけの相対的に大きな魅力があつたといふことになります。この場合もやはり海の民ですから、豊富な漁場のあること、海亀の産卵地域が大きく広くあること、火山帯地域であること、従ひ土器の製作のできる事が主たる必須の移住の要件であつたと考へられます。といふことは、この時既に日本列島からの情報は伝はつてゐるわけですから、南太平洋諸島と日本列島との間の行き来は、先に渡つたものたちとの間にあつたものと考へることができます。船の速度は陸の徒歩の速度より遥かに高速である。

(4) 中臣の大祓と呼ばれてゐる今に伝はる祓詞は、このやうに考へると、その内容を前述の読んだところから従ひ、また上記(2)の国家の成立と神々の関係を考へると、既にふるさとの島嶼ネットワーク国家を離れる前に存在してゐたと考へることができます。しかし、

(5) 現在の形の大祓の文言は、やはり箱根神社といふ神社のあることを考へて、神山と大涌谷といふ凸凹の形状の火山とカルデラといふ自然があるのであれば、大祓の中にある次に後述する言葉は箱根神社の姿を示してゐると考へることができます。今直接箱根神社に関係する箇所を大祓より引用して解説します。しかし、

(6) ここから先の専門的な探検は、箱根神社の古文書を専門家が読み解き、内容を文字も含めて解析して明らかにすることになりますが、次の章はその閾を超える一歩手前までの考察です。さて、年表の話です。

(7) スメラ・ミコトの皇統の歴史的長さが90万年あるといふことには、実証的な理由のあり得ることを、次の資料で知りましたので、ご紹介します。この資料以外に同類の資料を見つけてゐるわけではないので、これは、この論考の文脈では後日の課題とします。ここでいひたいことは、大陸の歴史があれば、海洋の歴史もあり、大陸の民の歴史があれば、海洋の民の歴史、即ち島々に住む人たちの歴史も遙か悠久の時を経てあるだらうといふことです。土を掘れば土の中のものしか出てこないが、海を掘れば海の中のものばかりが出てくるといふことです。大陸に初期人類がゐたら、海洋にも初期人類はゐるだらうし、ゐたといふことです。ナショナルジオグラフィックの記事です。遺跡の発掘場所はエーゲ海のクレタ島です(「初期人類、航海術に長けていた」2010.02.18)：<https://natgeo.nikkeibp.co.jp/nng/article/news/14/2325/>)：

「現地産の石英から削り出されたその粗雑な斧は、17万5000年前ごろまで人類の祖先がヨーロッパ本土やアフリカで使用していた手斧と類似していた。捕獲した動物の骨や肉を加工したり、皮を剥ぐのに使われる石器であり、約100万年間そのままの形で受け継がれてきた技術とみられている。

今回の手斧が発見されたクレタ島は、約500万年前から広大な海に囲まれている。つまり、高度な工作技術を持った現生人類以外の何者かが、数万年間にわたって地中海の島々を転々としていた可能性が出てきたのである。ホモ・ネアンデルタールンシス(ネアンデルタール人)か、ホモ・ハイデルベルゲンシスか、ホモ・エレクトスか、あるいは初期のホモ・サピエンス(現生人類)だろうか。」

(8) 日本列島で柳田國男と折口信夫の創始した民俗学が、太平洋の島々へと探究の適用範囲を拡げたら、海洋民族日本人固有の海洋文化人類学が誕生すると私は思ふ。それは日本学の新しい一学問となることとせう。挑戦する価値はあると思ふ。クレタ島に海洋初期人類の遺物があれば、太平洋にも海洋初期人類の遺物と遺跡があるだらうといふことです。

(9) 私の今までの生きてゐる時間の中での知見ですら、生命にとって本質的なことは世界同時多発的に並行して起きる。といふのが私の認識です。キリスト教起源の唯

一の絶対的な祖型を求めるといふ考へは捨てるべきです。世界は諸事万物が相対的であり、多次元である。従ひ、文明同士の優劣ではなく、文明の多様性を大切にするならば、一層さうすべきです。この思考の「天（あめ）の磐座放ち/天八重雲を伊頭（いづ）の千別（ちわ）きに千別き」たる、国津の世界での最初の分岐点（break・ブレイク）としての千別きは、海か陸かです。まさか、空はないと思ふ。空中人類に会つてみたいものですが。この分岐点に関する認識は、そのまま現代の地政学と、海政学（もしこのやうな命名が既にあるならば）に、そのまま文明論の一部を構成する学問として応用が効きます。これは日本学の一部門を構成します。そして、
（10）「神武天皇より数へて」「今に一百七十九万二千四百七十余歳」とある皇統の長さは事実である可能性が太平洋にあつても高いといふこと。

問：日本書紀にある「神武天皇より数へて「天祖（あまつみおや）の降跡（あまくだ）りましてより以遠（このかた）」に云ふ「天祖（あまつみおや）」とは誰で、天祖（あまつみおや）の降跡（あまくだ）り」とはいつか？

答：海亀歴の算法があつて、これを記録する手段、即ち媒体もあつたのです。それが何かと問ふて一番身近にあるのが、縄文土器の縄目の結びと放（さ）け、即ち閉ぢることと開くことの模様です。お祓ひといふことからいつて、古事記の叙述を読むと注連縄の結びと此れを断ち切つてする放（さ）けは祓ですから（「天の原ふり放（さ）け見れば）、この祓の心での記録の方法があるに相違ない。これは推測です。かく見れば、結びと放（さ）け又は放（さ）きもまた一對のコト・タマである。

さて、「天祖（あまつみおや）」とは誰であるかと問へば、それは個人の名前は残つてはゐず、職務・機能・functionの名前でカミの名として残つてゐると答へる以外にはない。しかし、この無名のままカミの名前で死後も生き続けるといふことは、ヒトの理想の姿ではないでせうか。そして、これが私たちの謂はば転生輪廻である。

また、天祖（あまつみおや）の降跡（あまくだ）り」とはいつか？といふ問ひに対しても、同じ様式・styleで、天降つたことは既に十分に理解ができます。といふことは、私たちの瓊瓊杵尊が天降る場所は常に、火山帯域であり凹の形象があり粘土があり海亀の産卵地であり、そのやうな場所を探すと、これはこのまま其処で私たち日本人の海の民としての祖先・天祖（あまつみおや）の歴史は天降りの歴史で、これが各時期各時代の端緒を示すと理解してよいと思はれる。日本列島のみならず、太平洋諸島や対岸の南北中南米の大陸の太平洋側の沿岸で上記の要件を満たす地域に、たとへ内陸に入らうとも、私たちの場合と同様に、瓊瓊杵尊の天降りの歴史がきつとあるので

（11）上記問答を受けて更に思ふことは、瓊瓊杵尊は間違いなく、禪（ふんどし）を締めて天降つた筈です。遊牧民式の、今の日本男児が文明開化の果てにキンタマを抜かれて履いてゐるやうな大陸パンツではない。海の男の緊禪（きんこん）一番の隆々たるふんどしである。といふことは、南太平洋の島々の中で禪（ふんどし）を愛用してゐる男たちの住む島こそ、私たちの海の民としての日本男児のふるさとなのではないのだろうか。さう思つて調べると、あるのです。見つけた其の島の名前はヤップ島といふ島です。この島は大きな石の貨幣で通貨の歴史に名高い。欧米人が貨幣を

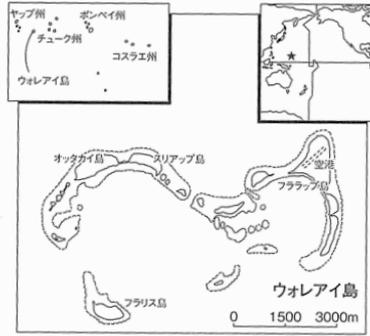
論ずるときに歴史記述の最初に必ずと言ってよいほどに出て来る島です。幾葉かの写真を並べます（おがわかずよし著『南の島でえっへっへ』の「第7章 ふんどしラバラバ突撃隊」より）。

ヤップ島の地図

禪姿のヤップ島の男



これはお相撲さんの姿ではないのでせうか。



ミクロネシア連邦 (ヤップ州)

面積：702km²、うちヤップ州100.2 km²。人口：106,836人 (2011年7月推計)、うちヤップ州11,700人 (2008年推計) / 人口増加率：-0.313% (2011年推計) / 平均寿命：71.52歳 (2011年推計) / 女性1人当たりの出産数：2.74人 (2011年推計) / 言語：チューク語、コスラエ語、ボンベイ語、ヤップ語、ウルシー語、ウオレアイ語、ヌクオロ語、カビンガマランギ語、英語 / 15歳以上の識字率：89% (1980年推計) / 首都：バリキール (ボンベイ州) / 1人当たりのGDP：2,200ドル (2008年推計) / 主な輸出品：魚類、衣料品、バナナ、胡椒、カバ、びんろう / 通貨：米ドル、1米ドル=76.85円 (2012年1月1日) / 年間訪問者数：18,958人、うち日本人3,354人 (2005年) / 在留日本人数：112人 (2010年10月) / 略史：スペイン、ドイツの植民地支配を受けた後、第一次世界大戦の結果、現在の北マリアナ諸島、マーシャル諸島、パラオとともに日本の統治下に入る。第二次世界大戦中は連合艦隊の基地が置かれたチュークを中心に各島に日本兵が駐留し、米軍による爆撃を受けた。戦後アメリカが国連信託統治領として支配し、1986年にヤップ、チューク、ボンベイ、コスラエの4地区が集まってミクロネシア連邦として独立、首都をボンベイ州に置いた。トシオ・ナカヤマ初代大統領(故人)は日系人である。

この島の地図を見ると天然の良港即ちミナ・ト (門) が幾つも見ることが取れます。この島で囲まれた湾といふべき海域が天然の漁場です。そして、この島には火山もあつて煙を噴いてゐるのです。勿論海亀も産卵にやつてきます。

「第4章 極秘指令 南洋の秘薬をゲットせよ」より



ミクロネシア、オロルック島で産卵を終えて海へ帰るカメ

当然のことながら海亀がやつて来ます。ヤップ島では海亀を食用に供してゐると書いてあります。



普段着姿で記念写真

普段着で男は禪、女は腰巻きで上半身は裸です。日本の女性も昔はこのやうに胸を出すことに年配かお年寄りの女性には羞恥心はなかつたと子供の私は記憶してゐます。誠におほらかなる日本の国でした。



左の通貨はヤップ島の有名な石の通貨です。Stone money と英語で呼ばれてみて、日本語には石貨と和訳されてゐます。私の此の論考の仮説が正しければ、この通貨其のものか、または此の通貨を流通せしめた島嶼間の経済の論理が日本列島にも、その基本は凹といふ形象とともに伝来してゐる筈です。

左のページは『Curious Currency』(Whitman Publishing, LLC) からの転載ですが、この通貨に関する記述が正しければ、私の理解では、既にこの太古・古代に今の英語でいふ credit・クレジット・信用といふ概念があります。即ち信用の貸し借り・やりとりであり、それを記録する術も当然にあつたと考へることができます。この記録の手段・媒体が何であつたかは稿をあらためます。やまと言葉でいふ貸し借りを一言で何と縄文人はいつたのでせうか? ヨシミなどといつてゐたのかも知れません。

この写真を見ると解りますが、これはお相撲さんの姿です。ハワイからやつて来て大関にまでなつたジェシー高見山関などは、実は太古に來日した相撲取りの原型ではなかつたのだらうか。同じチカラ持ちが、今では相撲取りにならずに、サモア島などから来てラグビーの選手になつて日本人となつて活躍してゐる。

宮本徳蔵著『力士漂白 相撲のアルケオロジー』（小沢書店）といふ本は長年私の愛読書の一つですが、どうも納得できないことの謎が、このやうに考へて来ると解けました。話が横道に逸れるやうですが、しかし、依然として日本文明とお祓ひの話です。この書には、相撲取りの初めは蒙古から來たといひ、支那大陸を通り、朝鮮半島を通つて、日本に來たといふ説明がなされてゐます。しかし、この本に載せられてゐる大陸と朝鮮半島の相撲取りの写真は、モンゴル式の大大陸パンツを履いた相撲取りであつて、我が日本の国の相撲取りの締める禪ではない。もう一つの大きな違ひは、土俵を示す注連縄、即ち相撲ならば俵がないといふことです。これは、既述のところでご理解戴いた通り、日本の縄文思想の原理に基づくお祓ひの、シロと注連縄といふ一筆書きの様式・style・スタイルでありますから、名前は土俵と漢意（からごころ）で呼んでゐても、やまところでは磐座（いはくら）に注連縄の様式と何ら其のところは変はらないのです。

この場合、相撲取りがシロ（代）だといふことになり、漢心でいへば象徴であつて、従ひ、ここまでの考察によれば、元々カミである、といふことは天津の世界のヒトであつた者が、お祓ひによつて国津の世界でミコト持ちになつた姿が、土俵で力をぶつけあふチカラ持ちであるといふことになります。今手元の古語辞典でスマフといふ動詞の意味を尋ねれば、

すま・ふ【争ふ】スマフ・スマウ（自ハ四）①張り合う。手向かいする。抵抗する。「まだ心いきほひなかりければ、とどむる勢ひなし。女も卑しければ、——・ふ方なし」（伊勢四〇）②（むりに）辞退する。ことわる。「元服はもの憂がり給ひけれど、——・ひ果てず」（源・匂宮）

とあるところを読めば、スマフといふ言葉の意味は、居すはる、とか、動かさうとする力に立ち向かつて抵抗して不動のままであるといふ意味になる。むしろ力の衝突によつて生まれる不動といふことによる静止によつて示される力の現れであります。シロといふやまと言葉の意味には此の意味も含まれてゐるといふことになります。ですから、相撲は勝ち負けを競ふスポーツといふ欧米由来の運動では全然ないといふことが解ります。これは私たちの実感に一致してゐます。私たちは土俵上で二人の力もちが所謂（いはゆる）がっぷり四つになつて静止した状態に最も美を感ずるのは、その状態がスマフといふことの不動の顕現だからです。

そして、これが、確かに今でも家を建ててまた借りて住まひすることなのではないでせうか。日本で借家法で賃借人の権利が強いのは案外と私たちの無意識にある此の力

持ちの概念即ちコト・タマ（言霊）が生きてゐるからかも知れません。大家が立ち退けといふのが外部からの力、これに対してスマヒするヒトは力持ちといふわけです。これに対して、大陸の相撲取りの身につけるものは褌ではなく、まあ、正しい名前がわからないので（著者の意見する相撲の伝達経路であると云ふ）モンゴル→支那→朝鮮にあつてはみな、遊牧民のはくズボンにみあつた大陸パンツである。

蒙古の相撲取り



土俵がない



支那古代の相撲取



同書扉の写真

角抵塚壁画(中国吉林省)

朝鮮古代の相撲取



同書扉の写真

安岳第三号墳壁画(北朝鮮黄海道)



江戸時代

谷風 春好画

同書より

H 大祓に書かれてゐる大祓の祭祀の式次第はどのような式次第であるか
(以下次号)

Topologyで日本の文化を解説する「内なる境界シリーズ」

(12)

扇

岩田英哉

あふぐなら いぶきどのかみ ゐたちなむ たれもかれもが みなかみがゆゑ



編集後記

●巻頭詩（16）Masters [名人たち]：キングスレイ・エイミス：この詩人は如何にもイギリス人らしい人物です。批評文もまた同様にある種の難解さがあります。しかし文章に魅力がある。日本にこの型の作家を求めれば誰かと尋ねれば、吉田健一ではないかと思ひます。と思ふてみれば、この方はイギリスに長く住み、英語に胆嚢な出色の文士でした。父親は外務官僚としてイギリス生活も経験してゐる総理大臣吉田茂です。●周辺飛行（41）：3。『周辺飛行』について（21）：猫：周辺飛行番外篇：この一連の周辺飛行のここに猫と題したエッセイが挟まることに意味があるでせう。安部公房全集が編年体であるといふことに感謝します。前は詩の話、次回は仔象は死んだといふ、しかしこれも詩の話。この間の猫の話（リルケ由来の天使の殺害）といふ作家の心理も誠に興味深い。詩人作家安部公房。

●私の本棚（35）：小松左京著『小松左京自伝—実存を求めて』を読む：小松左京がSFの先人安部公房をどのやうに見てゐたかのよくわかる自伝でしたし、当時の安部公房の文学的位置、また1960年代から1970年代にかけての日本の世相もよく伝はります。それにしても、1973年の「日本沈没」の売れ行きの凄まじいこと。読者も文学に求めるものが非常に大きかった。それも別に純文学である必要はなかつた。2020年代にあつては如何に。メタ・フィクション小説あるのみ。●二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（11）：7.4 そもそも日本文学に云ふ小説とは何か：短い文章ですが、本質・エッセンスは凝縮できたと思ひます。日本文学に批評と詩精神の恢復を願ふ。そして、それがそのままメタ・フィクションになる方途を私たちは、作家も含めて、既によく知つてゐる筈。●ネット・モナド論（16）：7.4 メディア・プロパガンダの構造：これが、今のネット上に溢れる情報をみて整理した物事の全体です。私たちは、このやうな世の中を如何に生きるべきかを念頭に置いて書きました。●縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（14）：5.16.4 八の音義は何を意味するか（3）：G 日本書紀にある「神武天皇より数へて」「今に一百七十九万二千四百七十余歳」とある皇統の長さ（90万年）は何を意味するか：これも、おそらくは専門家の理解できなかつた年数なのでせう。しかし人間が何かを書きしるし、それを後世のために残さうと真剣に考へたときに、歴史を一体捏造するものでせうか？そんなバカなことはない。古事記・日本書紀の文章が歴史の捏造であると根拠なく断定した学者たちにこそ捏造の意志があつたといふことの、それは自白でありませう。対象に向かつていふ言葉は、その人を映す鏡です。さう、言葉世界はそれが文字になつてゐるならば、まづ文字と文字によつて書かれてゐる内容を信頼しなければ、それを理解することができないのです。●では、また、次号

【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館
「何處にも無い図書館」

【もぐら通信の編集方針】

1. もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
2. もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
3. もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
4. 編集子自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。